

千葉大学

大学院看護学研究院 年報 2024

〔2024. 4～2025. 3〕

Annual Report 2024
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



CHIBA
UNIVERSITY



目 次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員（2024 年度の在職者）	1
2. 学部生数および大学院生数	2
1) 学部生数	2
2) 大学院生数	2
II. 教育	3
1. カリキュラム	3
1) 看護学部看護学科	3
2) 大学院看護学研究科	6
2. 令和 6 年度教育の取り組み	10
1) 看護学部における英語科目	10
2) 令和 6 年度大学院教務委員会の取組—小班活動について—	13
3) 事業名称 グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP）	14
4) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター	15
3. 研究科学位論文一覧	16
III. 研究	22
1. 教員の研究業績（講座別）	22
2. 科研費・競争的資金取得一覧	55
1) 文科科研・厚労科研	55
2) その他研究助成金	58
3. 共同研究	59
1) 国際共同研究	59
2) 民間共同研究	59
IV. 社会貢献活動	61
1. 学協会等への貢献	61
2. 国及び地方公共団体等への貢献	61
1) 国の機関等	61
2) 地方公共団体等の機関等	62
3. メディア・報道等を通じた貢献	62
4. 公開講座	62
V. 国際交流	64
1. 海外への渡航者数	64
2. 海外からの来訪者数	64
3. 海外の大学との協定	65

1) 大学間協定	65
2) 部局間協定	65
3) ダブル・ディグリー協定	66

編集後記	67
-------------------	-----------

I. 組織

1. 教員組織と構成員（2024年度の在職者）

研究部門	講 座	教授	准教授	講師	助教・助手	特任／技術
先端実践看護学	高度実践看護学			小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
		富岡 晶子	佐藤 奈保		中水流 彩	(特任助教) 田中 優子 小柴 梨恵 高橋 沙織
		眞嶋 朋子			楠 潤子	(特任講師) 田崎 牧子
		増島麻里子			佐野 元洋	(特任研究員) 國武由香里 佐藤 睦 金城 芽里 臼井 智子 曾 嶺
						(国際高等研究基幹 特任助教) 依田 智未
		酒井 郁子			佐伯 昌俊	(特命助教) 今井 陽子
	高齢社会実践看護学	正木 治恵	石橋みゆき		佐々木ひろ	(特任講師) 山崎由利亜※
						(特任助教) 石井 彩 姚 利
			黒田久美子			
生活創成看護学	健康増進看護学	大内 基司		雨宮 歩		(特任助教) 田原裕希恵 田代 理沙 梅原 瑞幾
		前原 邦江			木村佳代子	(特任教授) 森 恵美
					遠山 房絵	(特任助教) 大和田達代
						(特任研究員) 山田 博美
		池崎 澄江				(特任研究員) 永田亜希子
	地域創成看護学	田上美千佳			鈴木 美央	(特任助教) 田原 郁恵 川上 奈々
		宮崎美砂子				
		石丸 美奈		岩瀬 靖子	坂井 文乃	(国際高等研究基幹 特任助教) 佐藤 太一
		諏訪さゆり	飯田貴映子		湯本 晶代	(特任助教) 犬山 彩乃 周 瑠
						(特任研究員) 上元 達仁
文化創成看護学	文化看護学		斉藤しのぶ		飛世真理子	(特任研究員) 山岸 仁美
					齊藤 可紗	
					ニヤマザオ アモス ティナシ	
	専門職育成学		井出 成美	カズノブ ダビッド※	齊藤 可紗※	(特任准教授) 下井 俊典
						(特任講師) 孫 佳茹
		中山登志子			(助手) 植田満美子	
				野崎 章子		(特任助教) 辻野 拓也
	看護政策・管理学	和住 淑子	銭 淑君			(特任教授) 島田 陽子
			杉田由加里	飯野 理恵		
		横田慎一郎				
附属看護実践・教育・研究 共創センター		センター長 (和住 淑子)				(特任講師) 山崎由利亜※
附属専門職連携 教育研究センター		センター長 (酒井 郁子)	(井出 成美) (特任准教授) 下井 俊典	(特任講師) (孫 佳茹)		
計		15	8	6	14	34

※カズノブ ダビッド講師は2024年10月に助教から講師に昇任

齊藤 可紗助教は2024年10月に専門職育成学講座に所属換

山崎由利亜特任講師は2024年10月に特任助教から特任講師に昇任

2. 学部生数および大学院生数

(2024 年 4 月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生 (留学生再掲)	卒業生累計 (2023 年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80 名 + 若干名)		336 (1)	3808
在 校 生 内 訳	1 年	82 (1)	
	2 年	86	
	3 年	88	
	4 年	80	

2) 大学院生数

カリキュラム	専 攻	課 程 (入学定員)	在校生 (留学生・外国人学生再掲)	修了生累計 (2023 年度迄)
大学院生 総数			138 (10)	1377
旧カリキュラム	看護学	博士前期課程 (25 名)	1 (0)	873
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0 (0)	(内数) 5
		博士後期課程 (12 名)	14 (1)	257
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	(内数) 4
	看護システム 管理学	修士課程 (12 名)	0 (0)	181
	共同災害 看護学	5 年一貫制博士課程 (2 名)	4 (0)	4
新カリキュラム	看護学	博士前期課程 (40 名)	67 (4)	56
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0 (0)	0
		博士後期課程 (15 名)	52 (5)	6
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	0

Ⅱ. 教育

1. カリキュラム

1) 看護学部看護学科

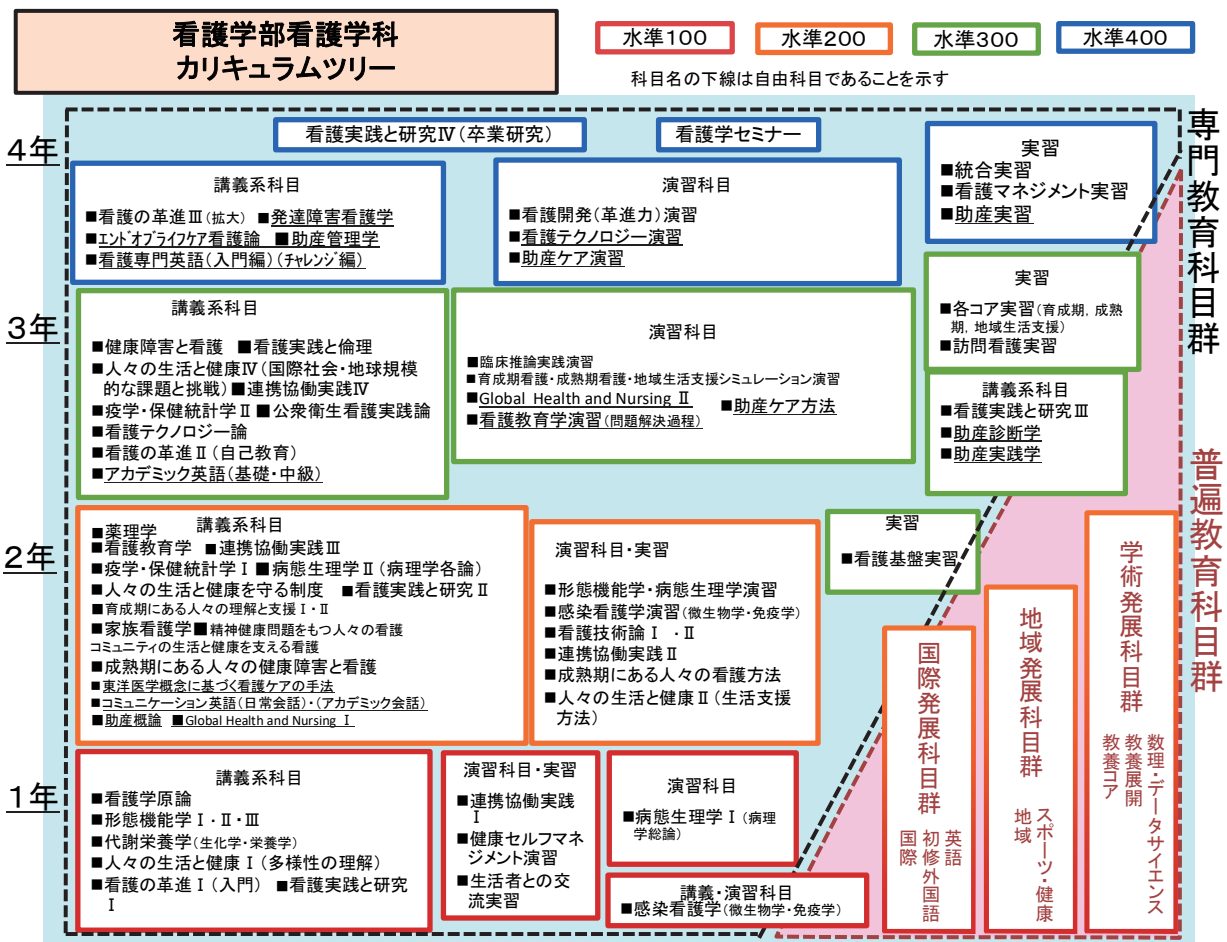
(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士（看護学）」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

令和5年度より開始した新カリキュラムにおける卒業時到達目標は、①看護実践能力②研究能力③革進力④連携協働力⑤倫理的実践能力⑥自己教育力の6つであり、これに基づく科目構成となっている。（下記カリキュラムツリー参照）

また、新カリキュラム開始に伴い新たに提供した科目として、1年次からの実習「生活者との交流実習」や、革進力の涵養を目指した講義「看護の革新Ⅰ（入門）」が行われた。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉メディカルセンター
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・船橋中央病院
- ・船橋市立医療センター
- ・山王病院
- ・東京かつしか赤十字母子医療センター
- ・木村病院
- ・東京歯科大学市川総合病院
- ・千葉県がんセンター
- ・弁天メンタルクリニック
- ・国立国際医療研究センター国府台病院
- ・下総精神医療センター
- ・成田赤十字病院

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院附属介護老人保健施設
- ・介護老人保健施設おゆみの

<助産所>

- ・おおた助産院
- ・NPO 法人お産子育て向上委員会 若草助産院

<診療所>

- ・有秋台医院
- ・東京はくと医療生活協同組合【浮間診療所】
- ・ファミリー産院ちば
- ・医療法人 成和会 山口病院
- ・柏の葉診療所

<市町村>

- ・市原市保健センター
- ・白井市健康福祉部健康推進課
- ・鎌ケ谷市
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛保健福祉センター
- ・白子町

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・印旛健康福祉センター
- ・習志野健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・なごみの陽訪問看護ステーション
- ・緑が丘訪問看護ステーション
- ・花見川訪問看護ステーション
- ・みやのぎ訪問看護ステーション
- ・土気訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションかがやき
- ・訪問看護ステーションゆうこう
- ・白十字訪問看護ステーション
- ・いちかわ訪問看護ステーション サテライトみなみはま
- ・いちかわ訪問看護ステーション
- ・ふたわ訪問看護ステーション
- ・さわやか訪問看護ステーション
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション稲毛
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーションさくら
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーションなりた
- ・看護協会ちば訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあすか
- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・まくはり訪問看護ステーション サテライトてんだい
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションコスモス
- ・かしわど訪問看護ステーション
- ・匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション Arica
- ・千葉メディカルセンター訪問看護ステーション
- ・船橋中央病院訪問看護ステーション
- ・茂原市長生郡医師会訪問看護ステーション

<地域包括支援センター>

- ・医療法人社団 慶勝会 館山市地域包括支援センター いちご
- ・社会福祉法人うらら 赤羽高齢者あんしんセンター

<小中学校>

- ・千葉市立あすみが丘小学校
- ・千葉市立さつきが丘東小学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立稲浜中学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立寒川小学校
- ・千葉市立金沢小学校
- ・千葉市立検見川小学校
- ・千葉市立高洲中学校
- ・千葉市立作新小学校
- ・千葉市立若松台小学校

- ・市原健康福祉センター
- ・市川健康福祉センター

<保育園>

- ・たいよう保育園
- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・今井保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園
- ・千葉寺保育園
- ・作草部保育園

- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立上の台小学校
- ・千葉市立真砂西小学校
- ・千葉市立千城台みらい小学校
- ・千葉市立天戸中学校
- ・千葉市立都賀中学校

<その他>

- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・生活クラブ風の村スペースぴあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・千葉市子育て支援館
- ・モーハウス
- ・公益財団法人 ちば県民保健予防財団
- ・生活クラブ風の村重心通所さくら
- ・おやこふれいすちるる
- ・ビュートゾルフ柏・みんなのたまり場
- ・かがやき会
- ・ハッピーニューライフ東船橋
- ・夏見のおうち子ども食堂
- ・千葉市社会福祉協議会東千葉地区部会
- ・いしいさん家
- ・蘇我子育てリラックス館
- ・千葉寺子育てリラックス館
- ・友愛会
- ・城北労働・福祉センター
- ・あやめ台いきいきセンター
- ・稲毛いきいきプラザ
- ・千葉中央いきいきプラザ
- ・蘇我いきいきセンター
- ・都賀いきいきセンター

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

本研究科のミッションは、看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすためにカリキュラムを全面的に見直し、2021 年度より教員組織体制を改革すると同時に、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。

(1) 看護学専攻：博士前期課程・国際プログラム

① 教育目的及び特徴

博士前期課程は、2 年間の教育課程であり、教育・研究者の育成を主眼とした「看護学コース」、および、卓越した能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成する「看護実践学コース」に大別され、さらに「看護実践学コース」には『看護管理学プログラム』『高度実践看護学プログラム』『特定看護学プログラム』が含まれる。

「看護学コース」においては、社会の要請にこたえる新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者を育成することを目指す。

「看護実践学コース」においては、課題やニーズの分析及び看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要となるリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成することを目指し、以下 3 つのプログラムごとに特徴を記す。『看護管理学プログラム』では、組織変革のためのリーダーシップが発揮できる人材を育成する。修了者は認定看護管理者の受験資格を得ることができる。『高度実践看護学プログラム』では、科学的根拠に基づくケア改善のリーダーシップが発揮できる人材、研究能力のある専門看護師を育成する。本プログラムはがん看護専門看護師ならびに小児看護専門看護師の教育課程として、日本看護系大学協議会から認定を受けている。『特定看護学プログラム』では、根拠に基づいた特定行為を含むケア提供のためのクリニカルリーダーシップが発揮できる人材を育成する。本プログラムは、2021 年度に新設され、厚生労働省が定める特定行為研修と連動している。

2021 年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として、研究方法や研究倫理等に関わる科目を含む「研究学術モジュール」、看護学革新力の基礎や看護管理学等に関わる科目を含む「実装モジュール」、臨床推論や臨床病態学、地域包括ケア論等を含む「実践モジュール」の 3 つの科目群を設置し、大学院生は各プログラムの特性に応じて指定された必須・選択科目を履修し、その後の専門関連科目や研究科目を学修する。特に、共通基盤科目においては、看護学コース等、他コースや他プログラムの大学院生も履修することから、背景の異なる大学院生が共に会し、意見交換をすることによる学修を促すことも意図している。

国際プログラムは「看護学コース」のみであり、英語による独立したカリキュラムである。

〔看護学コース〕修了要件：30単位以上

研究:12単位

必修

看護実践に必要な諸理論、知識、方法を修得し、問題を解決する能力を涵養する

- 理論開発特別研究(12)

演習:6単位

必修

専門分野の深い学識を、問題解決に活用するための実践的考察

- 看護研究演習(6)

専門科目:主専攻の2単位

選択必修

社会や人々を多層な視座からとらえ、自己の専門分野における研究開発の必要性を検討する

- 先端実践看護学Ⅰ(1)
- 先端実践看護学Ⅱ(1)
- 文化創成看護学Ⅰ(1)
- 文化創成看護学Ⅱ(1)
- 生活創成看護学Ⅰ(1)
- 生活創成看護学Ⅱ(1)

共通基盤科目:研究学術モジュール5単位、実装モジュール1単位、実践モジュール4単位を含む10単位以上

研究学術モジュール

- 看護学研究Ⅰ(必修1)
- 看護学研究Ⅱ(必修1)
- 看護学研究Ⅲ(必修1)
- 看護学研究Ⅳ(1)
- アカデミックコミュニケーションⅠ(1)
- アカデミックコミュニケーションⅡ(1)
- アカデミックコミュニケーションⅢ(1)

実装モジュール

- 看護革新力の基礎(必修1)
- EBP実装(1)
- プロジェクト・マネジメント(1)
- 看護管理学(2)
- 看護教育学(2)
- 専門職連携教育論(1)
- 専門職連携実践論(1)

実践モジュール

- 看護理論(1)
- 看護倫理(1)
- e-learning演習臨床推論(1)
- 専門職連携基礎(1)
- 専門職連携実践1(1)
- 専門職連携実践2(1)
- Cultural Competency and Cultural Humility(1)
- 社会課題解決基礎(1)
- 社会課題解決応用(1)
- 専門職間社会課題(2)
- コンサルテーション(1)
- 看護専門職論(1)
- ナーシングフィジカルアセスメント(2)
- 臨床病態学(2)
- 臨床薬理学(2)
- e-learning演習
フィジカルアセスメント(1)
- e-learning演習臨床病態生理学(1)
- e-learning演習疾病臨床病態学(1)
- e-learning演習臨床薬理学(1)
- 組織マネジメント論(1)
- e-learning医療安全学(1)
- 災害看護活動論(復旧・復興)(1)
- 災害マネジメント論(1)
- 災害時専門職連携演習(1)
- 地域包括ケア論(1)
- 看護政策(1)
- エンドオブライフケア学 1(1)
- エンドオブライフケア学 2(1)

〔看護実践学コース看護管理学プログラム〕修了要件：30単位以上

研究:12単位 必修 自組織の課題を解決するためのプロジェクト型研究を行うことで高度な探究能力を涵養する 看護管理課題研究 (12)	演習:6単位 必修 職場の課題解決のための情報活用や解決能力を修得する 看護管理学演習 (6)	専門科目:主専攻の2単位 選択必修 保健医療システムの変化や、医療の高度化、多様化、国際化した看護について深い学識を修得する - 先端実践看護管理学Ⅰ (1) - 先端実践看護管理学Ⅱ (1) - 文化創成看護管理学Ⅰ (1) - 文化創成看護管理学Ⅱ (1) - 生活創成看護管理学Ⅰ (1) - 生活創成看護管理学Ⅱ (1)
---	--	--

共通基盤科目：研究学術モジュール4単位、実装モジュール4単位、実践モジュール2単位を含む10単位以上		
研究学術モジュール - 看護学研究Ⅰ (必修 1) - 看護学研究Ⅱ (必修 1) - 看護学研究Ⅲ (必修 1) - 看護学研究Ⅳ (1) - アカデミックコミュニケーションⅠ (1) - アカデミックコミュニケーションⅡ (1) - アカデミックコミュニケーションⅢ (1)	実装モジュール - 看護革新力の基礎 (必修 1) - EBP実装 (1) - プロジェクト・マネジメント (必修 1) - 看護管理学 (2) - 看護教育学 (2) - 専門職連携教育論 (1) - 専門職連携実践論 (1)	
実践モジュール - 看護理論 (1) - 看護倫理 (1) - e-learning演習臨床推論 (1) - 専門職連携基礎 (1) - 専門職連携実践1 (1) - 専門職連携実践2 (1) - Cultural Competency and Cultural Humility (1) - 社会課題解決基礎 (1) - 社会課題解決応用 (1) - 専門職間社会課題 (2) - コンサルテーション (1) - 看護専門職論 (1) - ナーシングフィジカルアセスメント (2) - 臨床病態学 (2) - 臨床薬理学 (2) - e-learning演習フィジカルアセスメント (1) - e-learning演習臨床病態生理学 (1) - e-learning演習疾病臨床病態学 (1) - e-learning演習臨床薬理学 (1) - 組織マネジメント論 (1) - e-learning医療安全学 (1) - 災害看護活動論(復旧・復興) (1) - 災害マネジメント論 (1) - 災害時専門職連携演習 (1) - 地域包括ケア論 (1) - 看護政策 (1) - エンドオブライフケア学 1 (1) - エンドオブライフケア学 2 (1)		

〔看護実践学コース高度実践看護学プログラム〕修了要件：54単位以上

研究:12単位 必修	演習・実習:14単位 必修	専門科目:主専攻の10単位	選択必修
高度実践を行う際にエビデンスを活用するだけでなく、自らエビデンスを生み出す問題解決能力を涵養する ●専門看護特別研究(12)	複雑な健康問題をもつ対象にケアとケアを統合し役割を担う能力を修得する ●看護学実習Ⅰ-Ⅲ(10) ●看護学演習(4)	保健医療福祉のシステムの変化や高度実践に必要な役割を学び、ケアシステムの改善に向けた幅広く深い学識を修得する 小児看護専門看護師 10単位 ●小児看護学A・B ●小児と環境の査定 ●小児の病態・治療 ●小児の保健・医療制度 がん看護専門看護師 10単位 ●成人看護学A・B ●臨床腫瘍学概論 ●腫瘍医療ケアコーディネーション ●エンドオブライフケア看護学	
共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上			
研究学術モジュール		実装モジュール	
●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1)		●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(1) ●プロジェクト・マネジメント(1) ●看護管理学(必修2) ●看護教育学(必修2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)	
実践モジュール			
●看護理論(必修1) ●看護倫理(必修1) ●e-learning演習臨床推論(1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1) ●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題(2) ●コンサルテーション(必修1) ●看護専門職論(1) ●ナースングフィジカルアセスメント(必修2) ●臨床病態学(必修2) ●臨床薬理学(必修2)		●e-learning演習フィジカルアセスメント(1) ●e-learning演習臨床病態生理学(1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(1) ●e-learning演習臨床薬理学(1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(1) ●看護政策(必修1) ●エンドオブライフケア学1(1) ●エンドオブライフケア学2(1)	

〔看護実践学コース特定看護学プログラム〕修了要件：41単位以上

研究:6単位 必修	演習・実習:10単位 必修	専門科目:7単位～29単位	選択必修
自組織の課題や専門職連携の障壁の分析、特定行為の効果・検証を行う能力を涵養する ●特定看護課題研究(6)	特定行為を看護と統合して提供するため専門職連携・問題解決能力を涵養する ●特定看護実習(6) ●特定看護演習(4)	特定行為を患者・利用者の価値を尊重して実践し、地域包括ケアシステムを推進するために必要となる深い学識と確かな技術を修得する ●特定看護実践論Ⅰ(1) ●特定看護実践論Ⅱ(1) ●特定行為研修区分別科目(5～27) コンフォートケア科目群(5) リハビリケア科目群(8) ロングタームケア科目群(6) クリティカルケア科目群(8)	
共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上			
研究学術モジュール		実装モジュール	
●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1)		●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(必修1) ●プロジェクト・マネジメント(1) ●看護管理学(2) ●看護教育学(2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)	
実践モジュール			
●看護理論(1) ●看護倫理(1) ●e-learning演習臨床推論(必修1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1) ●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題(2) ●コンサルテーション(1) ●看護専門職論(1) ●ナースングフィジカルアセスメント(2) ●臨床病態学(2) ●臨床薬理学(2)		●e-learning演習フィジカルアセスメント(必修1) ●e-learning演習臨床病態生理学(必修1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(必修1) ●e-learning演習臨床薬理学(必修1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(必修1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(必修1) ●看護政策(1) ●エンドオブライフケア学1(1) ●エンドオブライフケア学2(1)	

② 実習施設一覧

＜高度実践看護学プログラム・小児看護＞

- ・2024年度は該当する学生なし。

＜高度実践看護学プログラム・がん看護＞

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・訪問看護ステーションフレンド

＜特定看護学プログラム＞

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県循環器病センター
- ・看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス） わいは
- ・看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス） ラピオンナーシングホーム
- ・台東区立台東病院
- ・済生会中央病院

＜その他＞

- 統合実習のTA：・成田赤十字病院
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- 研究目的等：・千葉大学医学部附属病院
- ・下総精神医療センター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉県こども病院
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター
- ・東京都立小児総合医療センター
- ・埼玉県立小児医療センター
- (敬称略、順不同)

(2) 看護学専攻：博士後期課程・国際プログラム

① 教育目的及び特徴

博士後期課程は、3年間の教育課程であり、社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者、及び学際的な視点をもつ理論やモデルを創出・検証する研究者を育成する。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として学際研究や看護革新力の展開等に関わる科目、専門科目として研究テーマに応じた看護特論、コンソーシアム科目として災害マネジメント論等の科目が開講される。

国際プログラムは、英語による独立したカリキュラムである。

〔博士後期課程〕修了要件：12単位以上

研究:5単位 研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別研究(5)	必修	演習:2単位 研究課題の設定、研究計画の策定について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別演習(2)	必修	専門科目:主専攻の2単位 専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた考察 ●先端実践看護学特論(2) ●文化創成看護学特論(2) ●生活創成看護学特論(2)	選択必修
共通基盤科目:3単位以上 選択必修 ●学際研究Ⅰ(導入)(必修1) ●看護革新力の展開(必修1) ●Academic Writing(必修1) ●グローバル演習(1) ●学際研究Ⅱ(発展)(1) ●看護イノベーション特論(1) ●Systematic Review(1) ●ジョブ型研究インターンシップ(1)					

2. 令和6年度教育の取り組み

1) 看護学部における英語科目

看護学部では、全学の方針に基づき部局独自の英語科目として、2019年度からは①コミュニケーション英語（日常会話・アカデミック会話）と②アカデミック英語（1・2）を、2021年度からは③看護専門英語（入門編・チャレンジ編）の計6科目を開講している。本稿ではそれぞれの科目について概要と特徴、学生の反応を示す。

（1）コミュニケーション英語とアカデミック英語（担当教員：David Casenove）

State of the English curriculum at the School of Nursing

At the undergraduate level, I designed four courses (2 speaking-focused courses, 1 reading-focused course, and 1 writing-focused course) to integrate English language skills in authentic situations that students would encounter. Despite each course having a preferential focus, all four courses integrate all language skills to provide effective language training. Attention is often brought to underline communicative differences between Japan and abroad. At the end of four years of university studies, students who enrolled in the English curriculum will be able to:

1. Use daily-life conversation techniques in a nursing care context to interact with patients.
2. Collect and synthesize information on an academic topic using multiple sources.
3. Give a personal, informed opinion with justification and supporting evidence.
4. Express themselves orally on a specific nursing topic while respecting academic conventions.
5. Synthesize scientific data to write an abstract following an academic format.

Description of the four undergraduate courses

Speaking courses Term 1 (2yr+3yr, 25 students) and Term 5 (2yr+3yr, 25 students)

One speaking-focused course entitled Communicative English (1: Daily Conversation) examines the importance of small talk in nursing practice: while learning simple speaking techniques and useful phrases, students associate those new linguistic tools with three important purposes of nursing speech (give and receive medically relevant information, add immediacy and sense of concern, and normalizing unpleasant or painful experiences). In the other speaking-focused course entitled Communicative English (2: Academic Arguments), students produce a presentation articulating a justified opinion with appropriate signposting and effective visual supporting materials.

Reading course Term 1 (3yr, 25 students)

The reading-focused course entitled Academic English for Nursing 1 uses authentic research articles regarding a common health issue (i.e. hand washing) to display the variety of styles and formats found in academic journals. Students take charge of one research article and learn techniques for active reading, skimming and scanning, data extraction from figures/tables, and conveying degrees of confidence through hedging.

Writing course Term 2 (3yr, 25 students)

The writing-focused course entitled Academic English for Nursing 2 expands on that same topic (hand washing) to invite students to write an abstract based on authentic health science data. Students will apply existing knowledge from other courses (statistics, public health, clinical hygiene guidelines) to understand the methodology followed to produce the dataset and highlight the main findings from the data collected. The course will examine the rules of academic writing for scientific reports and invite the students to apply them at

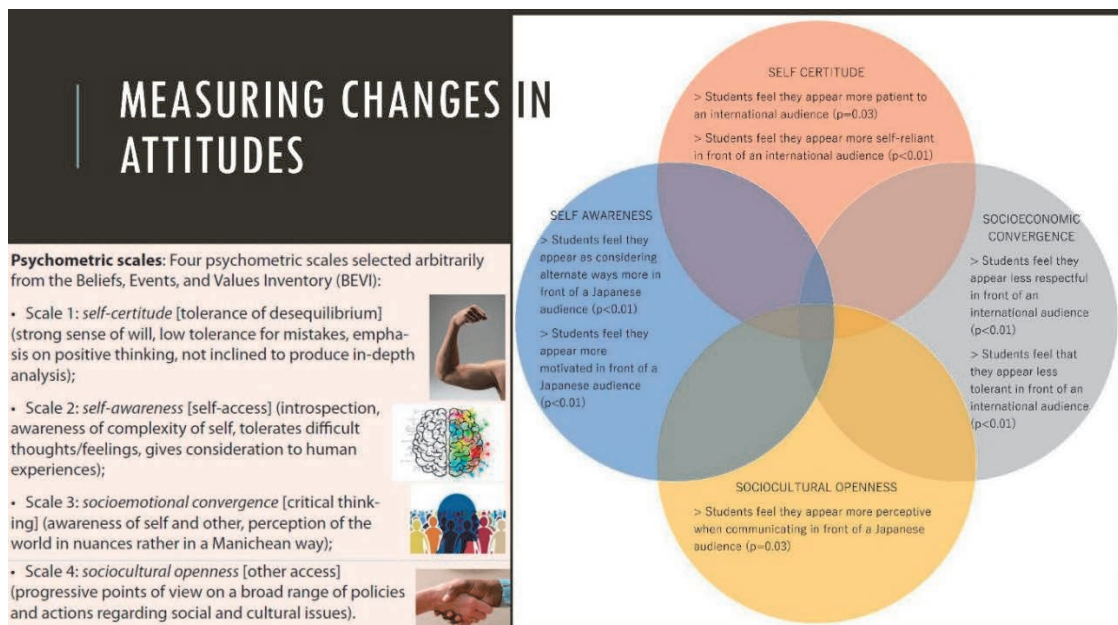
the scale of an abstract.

Impact

Methodology

A cultural competence questionnaire created by Fantini (1995) was adapted to focus on the change in attitude produced by the new English curriculum regarding the use of English as a medium of communication in 55 undergraduate nursing students. Attitude change was measured along four psychometric dimensions (self-certitude, self-awareness, socioemotional convergence, and sociocultural openness) using a 6-point Likert scale questionnaire survey.

Self-certitude measures the tendency to have a strong sense of will, low tolerance for mistakes, generally positive thinking, and analyze things superficially. Self-awareness measures the tendency toward introspection, awareness of the complexity of self, consideration for human experiences, and tolerance for uncomfortable thoughts. Socioemotional convergence measures the tendency to perceive the world in a non-Manichean way. Sociocultural openness measures the tendency to hold progressive points of view regarding social and cultural issues.



Outcomes

Japanese students felt that they appeared more considerate, respectful, and ready to adopt other better opinions in front of a Japanese audience. They also felt they appeared less self-reliant when communicating with other Japanese people. When asked about their motivation during the course, significant responses revealed that students did feel they acquired something new and they could persevere, despite the challenging nature of the classes. Finally, students felt that American students could more clearly state their true opinions head-on. While they felt that in a Japanese context, the main idea of a point appears more often at the start of an argument, eye contact is more flexible, and hedged claims are more common. Japanese students also agreed with the statement that they tend to mingle less with people of other cultures than their American counterparts.

We believe that the new English curriculum provided a transformative experience that contributes to higher levels of cultural humility.

（２）看護専門英語（担当教員：飯田貴映子、非常勤講師：西村多寿子）

【科目概要】

英語による医学・看護学を基盤とする医療コミュニケーションを実践的な学習により、グローバルに対応するために必要な能力の修得を目ざしたものである。入門編（第４ターム）とチャレンジ編（第５ターム）で行っている。

教員：西村多寿子先生（プレミアム医学英語教育事務所・株式会社ことのはラーニング代表）

<https://www.kotonohaproject.net/home>

内容：入門編・チャレンジ編ともにオンライン同時双方向とし、講師が専用に準備した web サイト「臨床英語コミュニケーション for 千葉大学看護学部」の音声教材とシャドーイング・録音システムを利用し、授業時間以外で自己学習に活用し、講義終了時の発音の改善を客観的に評価した。また、日本に暮らす外国人に対して「やさしい日本語」を使って専門職としてわかりやすく伝えることの重要性を教授した。英語による「聞く」「読む」「話す」「書く」の４技能の向上を目指し、国内においても専門職として外国人に看護を提供するうえでの基本的な姿勢を身に着けることができた。

2024 年からはチャレンジ編の中で、新たに本学留学生に模擬患者役を依頼し、①手術目的入院患者への問診とバイタルサインズ測定 ②プレママ・プレパパへの保健指導の場面、の２つのシチュエーションによるコミュニケーション演習を導入した。学生は日本語を母語としない人々に英語を用いた対応を経験することで、積極的な姿勢を身に着け今後の学習意欲へつながっていた。

【模擬患者と話す学生】



【受講状況】

開講当初は、看護の専門科目を履修した４年生を想定したが、医療現場を想定した実践的なコミュニケーションは臨地実習や海外留学時においても必要であるため、２年生での履修も可能とした。2021-2022 年は 10～15 人程度で４年生が中心であったが、選択英語２単位以上が卒業要件である入学生が２年生になった 2023 年以後は、２年生が大幅に増え、2024 年は入門編 40 人（２年次 32 名、４年次 8 名）、チャレンジ編 24 人（２年次 23 名、４年次 1 名）が受講した。

【演習後の集合写真 ２列目の左から４番目が西村先生】



2) 令和6年度大学院教務委員会の取組—小班活動について—

大学院教務委員会は、大学院教育及び入試等に関する事項について検討した。年度により取り組むべき課題が異なることもあり、毎年度、いくつかの小班に分かれて活動に取り組んでいる。令和6年度は、以下の5つの小班を編成し、活動した。＜＞内にはメンバーを示し、○はリーダーを示す。

1. 新カリキュラム評価・修了生の動向調査＜○中山、石橋、杉田、酒井、横田、佐野＞
2. 博士論文審査基準及び審査の流れの運用の点検、相談、改善＜○増島、宮崎、石橋＞
3. 志願者およびストレート進学者増の方策＜○杉田、石丸、佐野＞
4. 入学者選抜方法に関する評価・検討＜○富岡、酒井、増島、中山、石橋＞
5. 国際プログラムの将来検討・Duble Degree 検討＜○石丸、増島、杉田、和住、横田＞

(1) 新カリキュラム評価・修了生の動向調査

2024年度は、2021年入学者以降に適用したカリキュラムの4年目となる。今年度、新カリキュラムの評価として、以下に示す4点の活動を行った。

- (1) 2023年度に教員（2023年11月実施）および博士後期課程修了者（2024年3月実施）を対象に開催したワークショップの内容に基づき、博士後期課程のカリキュラム評価結果を教員間で共有した（2024年6月教員懇談会）。
- (2) 博士前期課程および博士後期課程各々の学位授与の方針（DP）に基づき、DPに示された能力を備えた修了生の輩出という観点から、教員間でカリキュラムを評価する機会を持った（2025年11月教員懇談会）。
- (3) 2024年度の博士前期課程修了者および博士後期課程修了者を対象に、カリキュラムの評価、学修成果の自己評価、学生間の学術的交流を目的にワークショップを開催した（2025年3月実施）。
- (4) 2022年度以降の博士前期課程修了者（計36名＊）および2023年度の博士後期課程修了者（計7名＊）を対象に、長期にわたるカリキュラム評価を目的に動向調査を実施した。

＊修了者のうちメールアドレス把握可能者

(2) 博士論文審査基準と審査の流れの運用点検

2024年度は新・博士論文審査基準を定めた初年度にあたることから、2024年度履修案内に新・博士論文審査基準を初掲載した。2024年度入学者が2年次となる2025年度が本格的な運用点検になる。

(3) 志願者及びストレート進学増の方策

本小班では、志願者の増加に向けて以下の内容を実施した。まず、学部生の新年度ガイダンスにてストレート進学を周知、他大学での大学院説明会とストレート進学の紹介、5月10日（土）に大学院説明会を実施、学術集会での情報交換会（日本地域看護学会、日本看護管理学会）や大学院紹介フライヤーの配布、同窓会、実習先、共創センター研修生へ大学院紹介フライヤーを送付、附属病院看護部との共催による大学院説明会を実施した。その成果もあり、2025年度の博士前期課程の入学者は増加した。

(4) 入学者選抜方法に関する評価・検討

令和7年度大学院入学者選抜の日程および入試科目の変更に伴い、実施準備支援、実施後の評価と課題整理を行った。入学者選抜方法の変更による大きな問題はなく、昨年に比べ定員充足率は増加した。今後の学生募集及び入学者選抜方法の参考とするため、4月に入学生を対象としたアン

ケート調査を実施し、入試に関する情報入手や受験準備等の状況を把握する予定である。

(5) 国際プログラムの将来検討・Dubble Degree 検討

2024 年度に国際プログラムの廃止が決まり、博士後期課程においては一般課程との統合が課題であることを確認した。それに対し、母国語が日本語でない人が受験し授業を履修できるように、入試については実施方法や英語の試験内容について、授業の履修においては言語的対応について方向性を検討した。また、大連医科大学とのダブルデグリープログラムに関する教育課程について検討した。

3) 事業名称 グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 (Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP)

(1) 担当教員 酒井郁子 飯田真映子 辻野拓也 石橋みゆき 井出成美 野崎章子

(2) 概要

本プログラムは、世界中の多様かつ地域特有の健康に関連する社会課題に取り組み、それぞれの地域社会での最適解を導き出す人材の育成を目標として、2022 年度より文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を得て開始した。本学で 2007 年から実施している医薬系学部を横断した「専門職連携教育プログラム-文算 IPE」を全学に発展させ、さらに複数の国の複数の専門領域の学生がお互いに学び合う、本学と海外提携大学間での学生交換プログラムである。JV-Campus 等を活用した事前学習の後、現地演習を経て、バーチャルワークショップで成果を共有する。また、本学における全学副専攻プログラムである大学院国際実践教育に位置づけ、GRIP 関連 7 科目 (8 単位) を全学共通科目として開講した。

(3) 本年度の取り組み

GRIP の中核である専門職間社会課題解決演習 Interprofessional Service Learning (ISL) は本学学生を海外提携大学に派遣し、また提携大学から学生を本学に受け入れ、渡航先の社会課題解決に取り組む現地演習である。本学からは、インドにあるシンビオシス国際大学およびイギリスのレスター大学、そして新たにオーストラリアのモナシュ大学に計 20 名の学生を派遣した。学生の所属等は前年に比しさらに多様となり、工学部、理学部、法政経学部、国際教養学部、教育学部、看護学部、薬学部、医学部、園芸学研究科、看護学研究科、医薬学府医科学専攻であった。派遣先では、困難な状況にある女性と子どもへの支援、ホームレス支援、高齢者ケア等の社会課題解決に取り組んだ。海外学生受入は、上記のシンビオシス国際大学 15 名、レスター大学 5 名の計 15 名であり、所属等はデザイン学部、商業学部、看護学部、看護・助産学部、医学部、大学院公衆衛生専攻であった。なおモナシュ大学からは 2025 年度より受入予定である。受入学生はチームとなり、非都市部における保健医療アクセス、ホームレス支援、災害準備、障害者の社会参加支援の 4 つの社会課題を主題として演習を行った。また、2024 年度より「ISL+クリニカルインターンシップ統合プログラム」を開始し、本学の 2 名の医学部学生がレスター大学での ISL 後に同大医学部でのクリニカルインターンシップを実施した。2025 年度からは受入学生についてもクリニカルインターンシップ統合プログラム実施を予定している。

2023 年度後期より、全学の大学院副専攻の履修プログラムとして「大学院国際実践教育 GRIP」として開講しており、2024 年度には同プログラムにおいて、国際実践教育としては初の 1 名の修了者を輩出した。

さらに、拡大ネットワーク構築ならびに普及・啓発を目的として、上記提携大学を含む 6 大学を訪問した他、オンラインでの国際シンポジウムならびに対面での国際フォーラムを開催した。

2024 年度実施の、文部科学省「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」(2022 年度採択) の中間評価において、最高評価である「S 評価」を受けた。

(4) 資金 大学の世界展開力強化事業 2 千万円

4) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

あらゆる分野でこれまでのしくみや制度を覆すような深淵かつ広域な変化に直面する中、教育においても、分野を問わず、教育の目標や方法を根本的に見直す動きが始まっている。看護を取りまくヘルスケア分野においても、次々にイノベーションが生まれ、医療・介護を取りまく環境は激変している。

このような環境変化の中、当センターでは、「次世代育成力強化のための看護系大学 FD 推進拠点」事業に取り組んでいる。この事業は、環境変化に創造的に適応する看護職育成を実現する先進的・体系的 FD プログラムの提供と大学間共同利用システム構築を通して、看護系大学の次世代育成力(①環境変化を分析する力、②環境変化に適応する力、③教育内容を変革する力、④主体的学びを促進する力、の4つの力が統合された力)を強化することを目的としている。

本事業は、看護系大学教員を目指す大学院生から管理的立場にある看護系大学教員まで、あらゆる立場にある看護系大学教員の FD ニーズに応える 5 段階のレベル別体系的 FD 研修を提供し、我が国全体の看護系大学の次世代育成力を重層的に強化する、我が国初の先進的取組となる。本年度より 5 段階の FD 研修プログラムを提供し、のべ 1,000 名を超える看護系大学大学院生、教員の皆様が受講された。

「次世代育成力」の強化を目指す 看護系大学教員向けレベル別FD研修プログラム



★のべ1,000名を超える全国の看護系大学教員、大学院生が受講

★研修専用のMicrosoft Teamsを使用

★8件のFD改善コンサルティングを実施

★研修用オンデマンド教材17本を作成



文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

3. 研究科学位論文一覧

令和6年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

〔博士論文（甲号）〕

研究題目（論文題目）	氏 名	指導教員
乳がん術前化学療法を受けた患者に対する運動と休息を取り入れた生活を支援する看護プログラムの開発	たしろ りさ 田代 理沙	眞嶋教授
施設入所高齢者の睡眠と夜間排泄ケア方法の改善を目指すアクションリサーチ	しゅうろ ZHOU LU	諏訪教授
在日中国人看護師の看護実践能力の向上を目指した異文化コミュニケーション能力育成プログラムの開発と有効性の検証	しょうたん JIANG DAN	池崎教授
認知症を有する高齢者の暮らしの場の選定への参画を促進する環境評価ツールの開発	やまさき ゆりあ 山崎由利亜	正木教授
幼児期前期にある早産児をもつ親の成長発達の捉えと対処を促す看護支援ガイドの開発	さかい かおり 酒井 佳織	佐藤准教授
うつ病回復期における服薬行動への共同意思決定を促進する外来看護面接プログラムの開発 ーコンコーダンス理論を活用してー	えばとかずこ 江波戸和子	田上教授
2 型糖尿病患者のセルフケア能力向上を目指した持続血糖モニタリング（continuous glucose monitoring : CGM）を活用する患者教育・支援プログラムの開発	おおくら みずよ 大倉 瑞代	正木教授
訪問看護管理者のリーダーシップ行動尺度の開発	かみもと たつひと 上元 達仁	池崎教授

〔博士論文（乙号）〕

研究題目（論文題目）	氏 名	論文受領教員
医療職者の感染予防行動に対する認識 ー医療環境の微生物・微粒子可視化前後の比較ー	とびせまりこ 飛世真理子	斉藤准教授

〔修士論文〕

看護学コース

修士論文題目	氏 名	指導教員
就労している糖尿病の壮年期男性が行うセルフマネジメント Self-Management Performed by Middle-aged men with Diabetes who are Employed	ふじた みき 藤田 美樹	飯野講師
シルバー人材活動を行う高齢者が人生を通して獲得してきた生きがい IKIGAI Throughout Life: A Case Study of Older Japanese People Engaged in Silver Human Resource Activities	くどう ふみか 工藤 郁香	正木教授
初めての立会い出産に向けた夫の準備体験 Experiences of Prenatal Preparation for First-Time Fathers Attending Childbirth	いのうえ まいこ 井上真衣子	前原教授
精神科看護におけるジレンマを抱えた場面に対するChatGPTを活用した振り返りの可能性 The Potential for Using ChatGPT for Reflecting on Dilemma Situations in Psychiatric Nursing	おがわ よしひろ 小川 義弘	和住教授
日本の集中治療室看護師が直面するアドバンス・ケア・プランニングを実施する上での障壁とその打開策についての調査研究 Barriers to Implementing Advance Care Planning and Their Strategies Faced by Intensive Care Unit Nurses in Japan: A Qualitative Study	かじわら あくし 梶原 握史	銭准教授
若手ICU看護師の終末期患者および家族への看護実践に対するリフレクションのプロセス Reflection Process in End-of-Life Nursing Practice: Exploring Early-Career ICU Nurses' Experiences With Patients and Their Families	きとみ ふみや 木富 史也	眞嶋教授
中国都市部において慢性疾患を持つ高齢者へ「インターネット+」で訪問看護サービスを提供する看護師の困難と工夫 Nurses' Difficulties and Strategies in Providing "Internet + Nursing Services" for Home Care of Older Patients with Chronic Diseases in Urban China	こ らん 胡 嵐	石橋准教授
地域在住前期高齢者における飲酒行動の自律的な調整とその影響要因 Autonomous Adjustment of Drinking Behaviors and Their Associated Factors Among Community-dwelling Older Adults Aged 65-74.	さ さ きよしの 佐々木康乃	石丸教授
模擬事例を用いた看護過程展開における看護問題抽出の思考過程 Utilizing Simulated Case Reports to Explore the Thinking Process Behind Identification of Nursing Problems during the Development of the Nursing Process	すなかわ まち 砂川 万智	斉藤准教授

修士論文題目	氏 名	指導教員
災害時に避難所外避難を行ったオストメイトの生活上の困難と対処 The Difficulties and Coping Experienced by Ostomates who Evacuated to a Place Other Than a Shelter During Disasters	たかとり しほ 高取 志歩	佐藤准教授
在宅療養する重症心身障害児とその家族の被災体験と備え Disaster experiences and preparedness of families raising children with profound intellectual and multiple disabilities at home	たかはし ゆか 高橋 優佳	佐藤准教授
経験 3 年未満の訪問看護師におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践要因 Factors Contributing to the Practice of Advance Care Planning by Home Visiting Nurses with Less Than Three Years' Experience	にかいどうひろか 二階堂祥加	池崎教授
地域で生活する精神疾患を有する人の居場所感及び対人関係の満足感－ソーシャルスキルとの関連－ Effect of Social Skills on Community Integration and Interpersonal Satisfaction in Persons Living with Mental Disorder	ひろはた かおる 廣 島 薫留	田上教授
一般病院に入院する高齢者の身体拘束解除に向けた臨床看護師による接触検知システムのユーザビリティと有効性の検討 Effectiveness and Usability of a Contact Detection System Used by Nurses to Reduce Physical Restraints of Elderly Patients in a General Hospital	まえだ ふみ 前田 芙美	雨宮講師
地域における多世代交流が参加者の生活へ与える影響 Influences of Intergenerational Exchange in the Community on the Daily Lives of Participants	まつざわ あいこ 松澤愛依子	飯野講師

看護実践学コース高度実践看護学プログラム

修士論文題目	氏 名	指導教員
HPV ワクチンキャッチアップ接種世代における接種意向の関連要因 Factors Associated with Vaccination intentions among Young Women Eligible for Catch-Up HPV Vaccination	くろひじ せいな 黒 肱 聖 菜	池崎教授
乳幼児期にある医療的ケア児の育児を支えることに対する訪問看護師の認識と実践 The perception and practice of home care nurses in support for parenting of infants and young children with medical complexity	いそべ さとこ 磯 邊 聡 子	富岡教授
訪問看護を利用する高齢者の人生の充実に向けた意向とエンド・オブ・ライフケア Preferences of the Elderly Who Use Home Nursing Care to Enrich Their Lives and End-of-Life Care	かわばた あき 川 端 亜 季	増島教授
再発・難治性造血器腫瘍患者の goals of care discussion の体験 Experiences of Goals of Care Discussions in Patients with Relapsed or Refractory Hematologic Malignancies	ごとう あい 後 藤 あ い	増島教授
ICU・PICU での治療を経て小児病棟に転棟した中途障害児の家族への支援に関する小児病棟看護師の認識 Nurses' perceptions of care for families of children with acquired disabilities transferred from the ICU or PICU to the pediatric ward	べく そんあ 白 聖 亜	富岡教授

〔修士研究報告書〕

看護実践学コース看護管理学プログラム

修士研究題目	氏 名	主査
A 市精神保健部署における相談支援体制の再構築	こばやし ゆ か 小林 由香	杉田准教授
政令指定都市における課題に応じた地域活動を推進する組織体制の構築	たかはし ま な み 高橋 真奈美	杉田准教授
特別区保健所における新人保健師の育成体制の再構築	たかやま きみこ 高山 公子	杉田准教授
複数の訪問看護ステーションを運営する民間企業における管理者育成の基盤構築	にしやま めぐみ 西山 めぐみ	池崎教授
中堅期保健師が主体的に推進した中堅期保健師人材育成強化の取り組み ーいきいきと誇りを持ち中核的な役割を担う保健師に育っていけるようにー	ほしあい ひろみ 星合 裕美	石丸教授
患者・家族の思いに沿った退院支援への変革 ー退院支援看護師と在宅療養支援看護師のチームアプローチ力の向上を目指してー	いちの ゆ か 市野 由香	石橋准教授
予期せぬ急変を予防するための手術リスクアセスメントの多職種情報共有システム構築 ー大腿骨近位部骨折の手術を受ける高齢患者に焦点をあててー	かとう かずみ 加藤 和美	黒田准教授
多職種協働による高次脳機能障害患者の地域移行支援体制の構築	たかぎ ま ゆ み 高木 真由美	諏訪教授
看護師長の人材育成に関するファシリテーション力の向上 ：法人下の9つの中小規模病院での組織を超えた取り組み	もり ともみ 森 智美	池崎教授
中堅看護師の自己教育を促す看護管理者の支援能力向上プロジェクト ー看護管理者の相互学習を通した看護組織の発展を目指してー	やまだ みか 山田 みか	黒田准教授
認知症治療病棟における身体的拘束の解除に向けた職員の意識変化を促す取り組み	リー ひろみ リー 博美	諏訪教授

看護実践学コース特定看護学プログラム

修士研究題目	氏 名	主査
大腿骨近位部骨折に対する手術の影響を最小限にして患者の回復を促進する特定行為を組み込んだ看護の効果	おかだ よしえ 岡田 芳恵	酒井教授
療養病床に入院する認知症高齢者に対する脱水の補正を適切に行うための特定行為を組み込んだ看護実践	きむら ま ゆ み 木村麻友美	酒井教授
弁膜症により手術を受ける高齢患者のリハビリテーションを促進する特定行為を組み込んだ看護実践の効果	こばやし もりいち 小林 守一	酒井教授
開心術を受ける高齢患者の苦痛の緩和と早期リハビリテーションに焦点をあてた特定行為を含む看護実践	よしだ み き 吉田 美樹	酒井教授

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（講座別）

※本研究院に所属している研究者の業績については下線を引いてあります。

（教員：実線、大学院生：点線、学部生：波線）

高度実践看護学

〔原著〕

1. Saiki, M., Fujisawa, Y., Sakai, N., Tsukahara, N., Okamoto, Y., Sano, M., Kusunoki, J., Masujima, M., Sakai, I., Majima, T. (2024). Nurses' Perceptions of Support in Cancer Pharmacotherapy at a University Hospital: A Descriptive Quantitative Study. *SAGE Open Nursing*. 10. doi: 10.1177/23779608241288718
2. 臼井智子, 金城芽里, 眞嶋朋子 (2024). 短期間で看取りを迎えた患者と家族に対する救急医療機関の一般病棟における看護援助. 千葉看護学会会誌, 30(1), 21-30.
3. Sano, M., Saiki, M., Masujima, M., Fujisawa, Y., Sakai, N., Tsukahara, N., Okamoto, Y., Kusunoki, J., Sakai, I., Majima, M. (2025). Practice for Cancer Pharmacotherapy among Nurses, Physicians, and Pharmacists in Japan: A Descriptive Cross-Sectional Study. *Journal of International Nursing Research*. 4 (19, e2024-0020. doi.org/10.53044/jinr.2024-0020)
4. 中村伸枝, 水野芳子, 奥朋子, 川西智美, 眞嶋朋子, 仲井あや (2024). 新型コロナウイルス感染症拡大のなかで施設や職種が異なる専門職と協働する専門看護師の活動と文化的視点. 文化看護学会誌, 16, 54-.
5. 酒井佳織, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2024). 幼児期にある早産児をもつ親の子どもの生活や発達上の気がかりと対処. 千葉看護学会会誌, 29(2), 45-56.
6. 柏木由実香, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2024). 造血幹細胞移植を受けた学童期から青年期にある小児がん経験者における退院後の身体調整と健康管理. 千葉看護学会会誌, 30(1), 11-20.
7. Suzuki, S., Sato, N., Miyazaki, M. (2024). Maternal experiences of pregnant women affected by natural disasters: A modified grounded theory approach. *Nursing and Health Sciences*, 26(2): e13135.
8. 花井詠子, 佐藤奈保 (2024). 被災自治体保健師が災害対応を行うにあたり生じる公私間の葛藤. 日本災害看護学会誌, 26(2), 4-18.

〔論文等(査読あり)〕

9. 関口貴恵*, 宮崎美砂子, 佐藤奈保 (2024). 指定避難所の拡大する機能と役割に関する文献検討ー避難生活の場としての避難所から避難所外避難者への支援活動に着目してー. 日本災害看護学会誌, 25(3), 59-70.
*5年一貫制博士課程修了
10. 松澤明美, 佐藤奈保, 中水流彩 (2024). 障がいのある人の親の向老期・高齢期の生活に関するスコーピング・レビュー. 日本看護科学学会誌 44, 1072-1082.

〔論文等(査読なし)〕

11. 増島麻里子 (2024). 巻頭言 一般社団法人千葉看護学会法人化によせて. 千葉看護学会会誌, 30(1).
12. 富岡晶子 (2024). 【思春期にある人々を取り巻く現状と支援】思春期看護概論 思春期のセクシュアリティの発達. 小児看護, 47(8), 960-964.
13. Maru, M., Tomioka, A. (2024). Who and What Did We Miss in Childhood Cancer Survivor Research? *Cancer Nursing*, 47(3), 167-168. DOI: 10.1097/NCC.0000000000001335

14. 中水流彩 (2024). 【こどもとの対話 小児看護におけるコミュニケーションの重要性】さまざまな発達段階にあるこどもとの対話 幼児期にあるこどもとの対話 治療・処置を受けるこども. 小児看護, 47(12), 1457-1461.

〔単行書〕

15. 増島麻里子: エンド・オブ・ライフ期にあるがん患者の特徴と援助のポイント. 鈴木久美, 林直子, 佐藤まゆみ(編), がん看護 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える, 改訂第2版, 南江堂, 91-96, 2025.
16. 松岡真里, 丸光恵, 豊田秀実, 富岡晶子: 第11章 悪性新生物と看護. 丸光恵 (代表), 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 第15版, 医学書院, 280-316, 2025.
17. 中水流彩, 濱田洋通: 第8章 循環器疾患と看護. 丸光恵 (代表), 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 第15版, 医学書院, 184-210, 2025.

〔学会発表抄録〕

18. 中三川綾香*, 佐野元洋, 楠潤子, 増島麻里子, 眞嶋朋子 (2024). 看護学生の一次救命処置の実施と教育に関する思い. 千葉看護学会第30回学術集会講演集, 42. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
19. 田崎牧子, 小川良磨, Kiagus Aufa IBRAHIM, 佐野元洋, 武居昌宏, 増島麻里子 (2024). 電気インピーダンストモグラフィ (EIT) 法の検者内信頼性の検証ー健常下肢を対象とした準実験研究ー. 第8回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 120. (査読あり・国内学会)
20. 梅田ゆめな*, 田崎牧子, 津村徳道, 増島麻里子 (2024). Tape measure による四肢周径測定 of 再現性の精度に影響を及ぼす技術. 第8回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 132. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
21. 井沢知子, 小林美香, 高垣有作, 久米川真治, 増島麻里子 (2024). 高齢下肢リンパ浮腫患者における弱圧の弾性着衣の装着によるリンパ浮腫と QOL の変化. 第8回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 133. (査読あり・国内学会)
22. 辻本あかね, 楠潤子, 増島麻里子 (2024). 短期放射線療法を受けるがん患者の医療に対する思い. 日本放射線看護学会 第13回学術集会抄録集, 95. (査読あり・国内学会)
23. 太塚知子*, 眞嶋朋子 (2024, 6. 14-15). 子宮頸部前がん病変と診断された女性のステイグマ体験をアセスメントするための質問紙の開発. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会, 神戸. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
24. Kinjo, M., Higashitsuji, A., Sano, M., Okada, S., Majima, T. (2024, June 14-15). *Experience of integrating mobile applications in the self-management of patients with heart failure*. ACNAP 2024 Annual Congress of the Association of Cardiovascular Nursing and Allied Professions, Wroclaw, Poland. (査読あり・国際学会(海外))
25. Yamasaki, F., Tahara, Y., Amemiya, A., Koopipat, C., Takahashi, M., Tsumura, N., Akita, S., Ogawa-Ochiai, K., Masujima, M., Rikiyama, N. (2024, July 15-19). *Color and Shape Measurement of Foot by Using Smartphone Sensors*. Optica Imaging Congress and Optica Sensing Congress, Toulouse, France. (査読あり・国際学会(海外))
26. 依田智未, 増島麻里子 (2024, 6. 22-23). 意思の疎通が困難な集中治療室患者のその人らしさを支え続けるケア指針の開発. 第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 宜野湾. (査読あり・国内学会)
27. Tsuchiya, M., Tazaki, M., Fujita, R. (2024, September 24-27). *Facilitators and barriers to survivorship shared-care model implementation: Comparisons between healthcare professionals in designated cancer hospitals and community hospitals/clinics in Japan*. The 25th International Psycho-Oncology Society World Congress, Maastricht, Netherlands. (査読あり・国際学会(海外))

28. Tsuchiya, M., Masujima, M., Tazaki, M., Mori, M., Kimata, A., Fujita, R. (2024, September 24-27). *The feasibility of a multidisciplinary online lymphedema prevention program 'Let's Rinpafushu Yobo' for Japanese survivors of breast and gynecologic cancer*. The 25th International Psycho-Oncology Society World Congress, Maastricht, Netherlands. (査読あり・国際学会(海外))
29. 金城芽里, 東辻朝彦, 曾嶋, 佐野元洋, 岡田将, 眞嶋朋子 (2024, 10. 9-10). ACP 外来の対話のなかで心不全患者が事前指示を記載した体験の意味付け. 第 21 回日本循環器看護学会学術集会, 東京. (査読あり・国内学会)
30. 根本かおり, 佐野元洋, 眞嶋朋子 (2024, 11. 10). 特定行為研修修了者による脳卒中急性期患者に対する人工呼吸器離脱プロトコルを使用した看護支援の効果. 日本保健医療福祉連携教育学会第 17 回学術集会, 45. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
31. 高橋良幸, 水流添秀行 (2024, 12. 7-8). 看護教育及び看護継続教育の場における思考発話 (ThinkAloud) アプローチの効果と課題についての文献検討. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
32. Otsuka, T.* & Majima, T. (2025, February 13-14). *Development of a Nursing Support Model for Stigma Coping in Women Diagnosed with Cervical Precancerous Lesions: Initial Model Creation (Phase 1)*. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
*博士後期課程修了
33. Otsuka, T.* & Majima, T. (2025, February 13-14). *Development of a Nursing Support Model for Stigma Coping in Women Diagnosed with Cervical Precancerous Lesions: Content validity evaluation (Phase 2)*. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
*博士後期課程修了
34. Usui, S. & Majima, T. (2025, February 13-14). *Effect of a Nurse-Led General Advance Care Planning (ACP) Booklet for Stroke Survivors at Home: A Pilot Study*. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
35. Zeng, R. & Majima, T. (2025, February 13-14). *Experiences and management of physical activity among patients with heart failure: a qualitative systematic review and meta-aggregation*. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
36. 梅田ゆめな*, 田崎牧子, 雨宮歩, 下村義弘, 津村徳道, 増島麻里子 (2025, 2. 22-23). リンパ浮腫の経時的モニタリングとしての Tape measure による四肢周径測定値の精度. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
37. 小西美ゆき*, 眞嶋朋子 (2025, 2. 22-23). 再発・転移がんで手術を受ける患者に対する初発がん手術の体験を活用した看護支援プログラムの考案. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
38. 田代理沙*, 眞嶋朋子 (2025, 2. 22-23). 乳がん術前化学療法を受けた患者に対する運動と休息を取り入れた生活を支援する看護プログラムの実現可能性の検証. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
39. 辻本あかね, 楠潤子, 高須清子, 増島麻里子 (2025, 2. 22-23). 骨転移に対する緩和的放射線療法を受ける進行がん患者の認識と対処. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌. (査読あり・国内学会)

40. 清水大嵩*, 小川俊子, 岡田忍 (2024). 特別養護老人ホームにおける介護職員の手指衛生に関する実態調査. 日本感染看護学会学術集会講演集, 24 回, 46-47.
*看護学部卒業
41. 小川俊子, 西尾淳子, Nyamadzawo Amos (2024). ゴマ油を用いた口腔衛生管理の実行可能性の査定. 日本歯科東洋医学会学術大会講演集, 42 回, 35.
42. Ogino, A., Sato, N., Nakazuru, A. (2024, June. 22-25). Developmental and Social Interactions among Adolescent and Young Adult Childhood Cancer Survivors: A Scoping Review. SIOP Asia2024, Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
43. 小林弘美*, 富岡晶子, 佐藤奈保 (2024, 7. 6-7). 造血幹細胞移植を受ける子どもの血縁ドナーとなった親の体験－血縁ドナーに決まってから造血幹細胞採取までを焦点にあてて－. 日本小児看護学会第 34 回学術集会抄録集, 89, 大阪. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
44. 前田はる香*, 佐藤奈保, 富岡晶子 (2024, 7. 6-7). NICU に入院経験があり医療的ケアを必要とする子どもの家族が在宅移行期に活用したインフォーマルサポート. 日本小児看護学会第 34 回学術集会抄録集, 108, 大阪. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
45. 小柴梨恵, 佐藤奈保, 中村伸枝 (2024, 7. 6-7). 医療的ケアの必要な幼児の保育の場における育ち－第 1 報: 幼児としての育ちに着目して－. 日本小児看護学会第 34 回学術集会抄録集, 145, 大阪. (査読あり・国内学会)
46. 小柴梨恵, 佐藤奈保, 中村伸枝 (2024, 7. 6-7). 医療的ケアの必要な幼児の保育の場における育ち－第 2 報: 環境との相互作用を通じた育ちの様相－. 日本小児看護学会第 34 回学術集会抄録集, 145, 大阪. (査読あり・国内学会)
47. 島元護, 川上陽子, 澤口さあや, 板倉悦子, 内海加奈子, 大高明子, 佐藤奈保 (2024, 7. 6-7). 小児 HCU に入室した子どもの家族が看護師に期待すること. 日本小児看護学会第 34 回学術集会抄録集, 159, 大阪. (査読あり・国内学会)
48. 石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 雨宮有子, 岩崎寛, 高原達也, 塩沢卓巳, 黒田久美子 (2024, 9. 1-2). 音声 SNS を共通基盤に市民と大学生が学びあう「災害シチズンサイエンス演習」構築過程の報告－災害に強い人と街を創るために. 日本災害看護学会誌, 26(1), 132.
49. 清水浩美, 富岡晶子, 谷本真理子 (2024, 9. 21-22). 妊娠糖尿病と診断を受けた女性の産後生活～産後 1 年以内の女性へのインタビューから～. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
50. Imazu, Y., Sasaki, Y., Kondo, A., Yamada, S., Azechi, H., Hayashi, C., Miyazaki, M., Sato, N., Noguchi, M., Ogata, A., Mashino, S., Kinoshita, M. (2024, November 30-December 1). Disaster Nursing Global Leader Program: Ten years' achievement in cooperative graduate education program. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 151, Kobe. (査読あり・国際学会(国内))
51. 渡邊朋, 小川純子, 竹之内直子, 上別府圭子, 富岡晶子, 塩飽仁, 佐藤伊織 (2024, 12. 13-15). 小児がんの子ども在宅療養への移行における病棟看護師から訪問看護師への情報提供. 第 22 回日本小児がん看護学会学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
52. Hanai, A., Sato, N. (2025, February. 13-14). Conflicts between professional responsibilities and personal issues among nurses and public health nurses in disaster-affected areas: A qualitative literature review. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))

〔シンポジウム・招聘講演〕

53. 佐藤禮子, 中村伸枝, 酒井郁子, 石橋みゆき, 増島麻里子 (2024). 理事会企画 今後の学会活動の探究－30 年の学会の歩みをふまえて. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集.

54. 秋田新介, 増島麻里子, 武居昌宏, 三川信之 (2024). 【パネルディスカッション 2 リンパ浮腫に対する外科的治療の適応と効果】リンパ浮腫に対する客観的評価に基づく外科治療の適応と効果. 第 8 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 63.
55. 増島麻里子, 松原忍, 渡辺直子, 徳川奉樹, 佐々木由香, 小野部純 (2024). 【特別企画】リンパ浮腫ケア: イノベーションへの挑戦ー特別関心活動グループ設立に向けて. 第 8 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 75.
56. 眞嶋朋子 (2024, 5. 24). 【Key Note Speech】Japanese DPC/PDPS and Nursing Initiatives for Medical Reimbursement. 第 17 回中国看護品質会議, Qingdao, China.
57. 依田智未 (2024, 6. 22-23). パネルディスカッション 3 重症患者の持てる力を生かす原点〜患者の声からケアを再考する〜: 患者と共にケアを創る世界の実現を目指して. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 宜野湾.
58. 眞嶋朋子 (2024, 7. 7). 日本の循環护理実践和研究趨勢. 房顫护理论坛暨第十届护理学术论坛, 中国 大連.
59. 佐野元洋 (2024, 7. 7). 日本心力衰竭患者居家自我护理. 房顫护理论坛暨第十届护理学术论坛, 中国 大連.
60. 眞嶋朋子 (2024, 9. 28). 【教育講演】楽しく研究活動をしよう②〜研究対象者の保護の実際〜. 第 55 回日本看護学会学術集会, 熊本.
61. 萩谷翔太 (2024, 10. 12-13). 真の援助者を目指して. 第 47 回日本史の臨床研究会年次大会, 札幌.
62. 眞嶋朋子 (2024, 11. 10). 【パネルディスカッション】日本循環器看護学会のこれまでの経緯と将来構想, 市民公開講座 日本循環器看護学会設立 20 周年特別企画, 第 21 回日本循環器看護学会学術集会, 東京.
63. 眞嶋朋子 (2024, 11. 27). 【教育講演】看護学の研究者としての成長: 博士課程での学びと挑戦, 香川県立保健医療大学, 高松市.

〔受賞(国内・国外)〕

64. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会最優秀演題賞: 研究部門 (口演)
依田智未, 増島麻里子 (2024, 6. 22-23). 意思の疎通が困難な集中治療室患者のその人らしさを支え続けるケア指針の開発. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 宜野湾. (2024, 6. 23 受賞) (国内・学会)
65. 2024 年度千葉看護学会優秀論文
太塚知子*, 眞嶋朋子 (2023). 子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマプロセス. 千葉看護学会会誌, 29(2), 1-10. (2024, 9. 7 受賞) (国内・論文)
*博士後期課程修了
66. 8 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会優秀演題賞
田崎牧子, 小川良磨, Kiagus Aufa IBRAHIM, 佐野元洋, 武居昌宏, 増島麻里子 (2024). 電気インピーダンストモグラフィ (EIT) 法の検者内信頼性の検証ー健常下肢を対象とした準実験研究ー. 第 8 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 120. (2024, 9. 14 受賞) (国内・学会)
67. リンパ浮腫管理の研究と実践 論文賞
Xiao, M., Higashitsuji, A., Majima, M., Masujima, M. (2022). Experience of patients with lymphoedema after breast cancer surgery: a meta-synthesis. *Lymphoedema Research and Practice*, 10(1), 8-19. (2024, 10. 5 受賞) (国内・論文)

〔その他〕

68. 増島麻里子 (2024, 6. 30). ライフプランニングセンター2024 年度リンパ浮腫座学研修「E-LEARN」リンパ浮腫予防指導. (オンライン)
69. 辻本あかね (2024, 9. 19). 第 72 回千葉県放射線治療研究会 放射線療法を受けるがん患者の心情. (オンライン)

70. 増島麻里子 (2024, 12. 24). NPO 法人がんネットジャパン第 20 期 乳がん体験者コーディネーター養成講座 アドバンス・ケア・プランニング. (オンライン)
71. 辻本あかね (2025, 3. 7). 第 7 回千葉県放射線治療合同研究会 放射線療法を受ける患者の語りからの示唆. (オンライン)
72. 石和田稔彦, 佐藤奈保, 中水流彩, 仲井あや, 大畑美穂子, 竹内典子, 長澤耕男, 竹下健一, 原木真名, 深沢千絵, 染谷知宏, 篠崎啓介, 渡邊哲 (2024, 4. 19-21). 新しい予防接種戦略: 赤ちゃんを守るための母体へのワクチン接種 (Maternal immunization) を知ろう! Maternal immunization の意義, 医療従事者の意識と知識. 日本小児科学会雑誌, 128(2), 174-174, 福岡. (査読あり・国内学会)
73. 市原真穂, 荒木暁子, 熊谷智子, 小林瑞穂, 及川郁子, 河上智香, 佐藤奈保, 西田みゆき (2024, 7. 6-7). [テーマセッション 22] 子どもとその家族のニーズに応じた高度実践看護のエビデンス構築と役割獲得—PEPPA モデルの活用—. 日本小児看護学会第 34 回学術集会, 大阪.

高齢社会実践看護学講座

〔原著〕

1. 石井彩, 石橋みゆき, 黒田久美子, 正木治恵 (2024). インスリン療法を継続する高齢者への外来看護援助—認知機能低下の疑いを契機とした支援の展開—, 千葉看護学会会誌, 30(1), 1-10.
2. 田中幸子, 西垣昌和, 小山田恭子, 石橋みゆき, 池田真理, 勝田美穂, 野村陽子 (2024). 看護基礎教育における教育プログラムに必要な政策コンピテンシー—デルファイ法を用いた調査結果から—, 日本看護科学学会誌, 44, 286-294.
3. 太倉瑞代, 瀬戸奈津子, 大原千園, 清水安子 (2024). 糖尿病看護認定看護師が捉える糖尿病患者への自己客観視の援助. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 28(2), 141-149.
4. Ishibashi. M., Sato. N., Amamiya. Yuko., Takahashi. Y., Sakajo. A., Haida. K. (2025). Collaborative partnerships during natural disaster recovery and preparedness: Methodological developments through activities with local citizens and researchers in Japan. Health Emergency and Disaster Nursing, 12, 54-67.
<https://doi.org/10.24298/hedn.2024-0002>

〔論文等(査読あり)〕

5. Yao, L., Masaki, H. (2024). Older Chinese people's experiences of relocation to long-term care facilities: A literature review of qualitative studies. Journal of International Nursing Research, 3(2), e2022-0038, 1-19. <https://doi.org/10.53044/jinr.2022-0038>

〔単行書〕

6. 石橋みゆき: 看取り連携体制加算 (No21), 夜間看護体制加算 (No22), 療養通所介護 (No23), 訪問看護ステーションにかかる指定の申請 (No28), 指定訪問看護ステーションにかかる指定の申請、公示等 (No29), 訪問看護ステーションの基準に係る届出 (No33), 高齢者介護研究会 (編), 高齢者介護用語・手続事典, 新日本法規, 2024.
7. 石橋みゆき: 第 2 章 高齢者看護における倫理, 第 1 節 高齢者の意思決定, 第 2 節 高齢者差別, 第 3 節 高齢者の権利擁護, 第 4 節 高齢者の意思決定を尊重するために. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害, 第 8 版, メディカ出版, 130-145, 2025.
8. 石橋みゆき: 第 16 章 終末期の看護, 第 1 節 高齢者の死と医療・ケア, 第 3 項 尊厳死と延命治療. 堀内ふき, 諏訪さゆり, 山本恵子 (編), ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践, 第 7 版, メディカ出版, 349-351, 2025.

〔学会発表抄録〕

9. Yuria, Y., Masaki, H. (2024, April 24-26). How do residents with dementia in long-term care facilities assess their living environment?: photo-elicitation interview. 36th Global Conference of Alzheimer's Disease International, Krakow, Poland. (査読あり・国際学会(海外))
10. 黒田久美子, 石橋みゆき, 岩瀬靖子, 菅原七海, 立石順久, 岩崎寛, 雨宮有子, 坂上明子, 佐々木ちひろ (2024, 6. 15-16). 市民と共に学生が学び合う災害シチズンサイエンス教育プログラムの効果と課題ー学部一般教養科目として開講 2 年間の学生の学びからー. 防災教育学会第 5 回大会, 神戸. (査読あり・国内学会)
11. 石丸晃子*, 佐々木ちひろ, 石橋みゆき (2024, 6. 30). 急性期病院における入院前面談を行う看護師の高齢緑内障患者への支援. 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
12. 黒田久美子, 張平平, 松本毅, 正木治恵, 崔高超, 唐山英明, 稲村尚子 (2024, 8. 10-8. 11). 高齢者の慢性腰痛改善を目指した経穴刺激セルフケア方法の長期継続性評価. 日本慢性看護学会第 18 回学術集会, 神戸. (査読あり・国内学会)
13. 石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 黒田久美子, 雨宮有子, 岩崎寛, 高原達也, 塩澤卓巳(2024, 8. 31-9. 1). 音声 SNS を共通基盤に市民と大学生が学び合う「災害シチズンサイエンス演習」構築過程の報告～災害に強い人とまちを創るために～. 日本災害看護学会第 26 回年次大会, 大阪. (査読あり・国内学会)
14. 工藤郁香, 正木治恵 (2024, 9. 7). 一人暮らし高齢者の生きがいに関連する人生観とありのままの生活. 第 30 回千葉看護学会学術集会, 東京. (査読あり・国内学会)
15. 段暁楠, 黒田久美子, 石橋みゆき, 正木治恵 (2024, 9. 7). 病院における高齢者のエンドオブライフケア質向上ツールの作成. 第 30 回千葉看護学会学術集会, 東京. (査読あり・国内学会)
16. 三保健*, 石橋みゆき (2024, 9. 7). 入院を契機に自宅から施設在住へ生活の場を移行した認知症患者が地域生活の中で暮らしやすさを再獲得する様. 第 30 回千葉看護学会学術集会, 東京. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
17. 太倉瑞代, 石井彩, 正木治恵 (2024, 9. 21-22). 糖尿病患者の持続血糖モニタリング (CGM) を活用した体験の文献検討 メタエスノグラフィーによる質的研究のメタ統合. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
18. 石井彩, 太倉瑞代, 正木治恵 (2024, 9. 21-22). 「2 型糖尿病患者の持続血糖モニタリング (CGM) 使用評価ツール」の内容妥当性の検討 質問項目原案の作成. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
19. 坂井志麻, 長江弘子, 石橋みゆき, 高井ゆかり, 岩崎孝子, 大西知子, 西川裕理 (2024, 10. 13-14). 高齢者施設における人生の最終段階の医療やケアに関する取組の実態. 日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会, 金沢. (査読あり・国内学会)
20. 西川裕理, 坂井志麻, 石橋みゆき, 高井ゆかり, 岩崎孝子, 長江弘子, 大西知子 (2024, 10. 13-14). 高齢者施設と急性期病院間での入退院時連携における施設職員が認識する困難と課題. 日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会, 金沢. (査読あり・国内学会)
21. 大西知子, 坂井志麻, 高井ゆかり, 岩崎孝子, 長江弘子, 石橋みゆき, 西川裕理 (2024, 10. 13-14). 高齢者施設の職員が認識する急性期病院との入退院連携の実態. 日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会, 金沢. (査読あり・国内学会)
22. Kyoko, Oyamada., Sachiko, Tanaka., Kimiko, Katsuyama., Yoko, Nomura., Miyuki, Ishibashi., Mari, Ikeda., Noriko, Kato., Masakazu, Nishigaki., Miho, Katsuta. (2024, October 27-30). Implementation of a Policy Education Model in Nursing Basic Education: A Case Study. 9th International Nurse Education Conference, Singapore. (査読あり・国際学会(海外))
23. Saito, T*., Masaki, H. (2024, November 13-16). Developing of a SDM Nursing Practice Model for Older Patients with Dementia in Acute Care Hospitals. Gerontological Society of America 2024 Annual Scientific Meeting, Seattle, America. (査読あり・国際学会(海外))
*博士後期課程修了

24. Yao, L., Masaki, H. (2024, November 13-16). Effectiveness Of An Aging-related Preparation Education Program For Older Chinese Migrants In Japan. Gerontological Society of America 2024 Annual Scientific Meeting, Seattle, America. (査読あり・国際学会(海外))
25. Yao, L., Masaki, H., Ohara, Y., Yang, H., Yang, J. (2024, December 7-8). Verification of the content validity and usability of the multicultural care communication tool (Chinese part) for medical institutions in Japan. 44th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2024, Kumamoto, Japan. (査読あり・国内学会)
26. Chen, T., Masaki, H. (2024, December 7-8). Dementia Care Education Programs for Nurses in Acute Hospitals: Literature Review. 44th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2024, Kumamoto, Japan. (査読あり・国内学会)
27. Yuria, Y., Masaki, H. (2024, December 7-8). Development of an Environmental Assessment Tool to involve older adults with dementia in the transition to long-term care facilities: Content validity through expert opinion. 44th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2024, Kumamoto, Japan. (査読あり・国内学会)
28. 正木治恵, 姚利, 楊恵晴, マスグレイブ武田美果, 楊静文, 田崎悠希 (2024, 12. 7-8). 医療機関で活用する多文化対応ケアコミュニケーションツール (英語版) の内容妥当性と活用可能性の検証. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市, 日本. (査読あり・国内学会)
29. 鈴木由加*, 佐伯昌俊, 正木治恵 (2024, 12. 7-8). 糖尿病性下肢創傷と共に生きる患者のウェルビーイング向上を目指した特定行為を含む看護実践; 事例研究. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市, 日本. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
30. 張平平, 黒田久美子, 松本毅, 正木治恵, 崔高超, 唐山英明, 稲村尚子 (2024, 12. 7-8). 腰痛改善に効果的な経穴刺激セルフケア方法が高齢者の歩行と姿勢に与える影響. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
31. 石橋みゆき, 田中幸子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 小山田恭子, 池田真理, 西垣昌和, 加藤典子, 野村陽子 (2024, 12. 7-8). 看護基礎教育における政策教育プログラム導入ガイドの開発ーA 大学における政策教育コンピテンシーの活用例ー. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
32. Chen, T., Masaki, H. (2025, February 13-14). Novice Nurses' Approaches to the Care of Older People with Dementia in Acute Care Settings: A Secondary Analysis. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
33. Nanami, S., Miyuki, I. (2025, February 13-14). The Transition Experience of Older Stroke Survivors from Acute Care Hospitals to Rehabilitation Hospitals: A Qualitative Study. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
34. Hu, L., Miyuki, I., Yang, J., Peng, Z. (2025, February 13-14). Nurses' Difficulties and Strategies in Providing "Internet + Nursing Services" for Home Care of Older Patients with Chronic Diseases in Urban China. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
35. 山崎由利亜, 正木治恵 (2025, 3. 16). 高齢者向け住まいに暮らす認知症のある高齢者のエンドオブライフ期を見据えた環境評価ー写真抽出法を用いたインタビュー事例からー, 文化看護学会第 17 回学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
36. Mizuyo, Okura., Aya, Ishii., Harue, Masaki. (2024, August 9-12). Experiences utilizing CGM of patients with diabetes Meta-integration through meta-ethnography, Association of Diabetes Care & Education Specialists 24, New Orleans, USA. (査読あり・国際学会(海外))

〔シンポジウム・招聘講演〕

37. Harue Masaki: (2025, 3. 12) Care - What Next in an Aging Society? The view from Japan. Building a Global Gero Center for Nursing Science: Community Event & Workshop, Sacramento, USA.
38. 正木治恵: (2025, 3. 16) 【鼎談】序章から次章に向けて－文化に根ざした看護学の創出に役立つ4つの視点と私－21世紀COEプログラムで幕開けした文化看護学のこれから, 文化看護学会第17回学術集会.

〔受賞(国内・国外)〕

39. Academy for Gerontology in Higher Education (AGHE) Student Travel Stipend
Yao, L., Masaki, H. (2024). Effectiveness Of An Aging-related Preparation Education Program For Older Chinese Migrants In Japan. Gerontological Society of America 2024 Annual Scientific Meeting, Seattle, America. (国外・学会)

〔その他〕

40. 正木治恵: 2024年度千葉県看護協会研修. No.30 地域における看取りを考える～在宅・介護施設における看取り～.
41. 石橋みゆき: (2024, 6. 13) 千葉県社会福祉協議会 令和6年千葉県社会福祉行政新任者研修. 介護保険制度の概要, 医療と介護の連携, 高齢者の特徴, 高齢者福祉の現状と課題.
42. 長坂奎英: (2024, 7. 30) 公益社団法人 静岡県看護協会 認知症対応力向上研修. 2-3 実践対応力Ⅱ③ 倫理的課題と意思決定支援・権利擁護.
43. 石橋みゆき: (2024, 8. 26) 令和6年度第2回香取保健所管内保健衛生連絡協議会保健部会及び管内保健師業務連絡研究会. 災害からの回復・復興における保健活動.
44. 長坂奎英: (2024, 9. 14/9. 24) 公益社団法人 埼玉県看護協会 認定看護管理者教育課程サードレベル研修. 組織管理と倫理.
45. 石橋みゆき: (2024, 10. 29) 香取市役所福祉健康部 令和6年度在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会. 医療と介護の連携.

健康増進看護学

〔原著〕

1. Fukui, S., Fujita, J., Ikezaki, S. (2024). Development of the Face-to-face Cooperation Evaluation scale Short-version (FACES) to enhance collaboration among health and long-term care providers. *Geriatric Nursing*, 58, 318-323.
2. Iwata, H., Seki, M., Mori, E., Maehara, K., Kimura, K., Toyama F. (2024). *Sleep quality and depressive symptoms in men during their partner's pregnancy: A cross-sectional observational study using actigraphy*. *Journal of International Nursing Research*, 1-10. <https://doi.org/10.53044/jinr.2022-0034>
3. Takei, GL., Horibata, Y., Toyama, F., Hayashi, K., Morita, A., Ouchi, M., Fujita, T. (2024). Hamster spermatozoa incorporate hypotaurine via TauT for self-protection. *Reproduction*. 2024; 168(2): e240022
4. Tahara, Y., Amemiya, A., Kase, R.*, Kitagawa, Y.*, Ogasawara, S., Kato, N., & Komiyama, M. (2024). Relationship between hand-foot skin reaction and external force on patients with hepatocellular carcinoma: A cohort study. *European Journal of Oncology Nursing*, 70. <https://doi.org/10.1016/j.ejon.2024.102576>
*博士後期課程修了
5. Tahara, Y., Amemiya, A., Kase, R.*, Kitagawa, Y.*, Ogasawara, S., Kato, N., Komiyama, M. (2024). Foot deformity and footwear characteristics in hand foot syndrome with pain or neurological symptoms: a prospective cohort study in hepatocellular cancer patients on

tyrosine kinase inhibitors. Journal of Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine, 5(3), 191-199.

*博士後期課程修了

6. Arimatsu, N., Amemiya, A., Hayano, K., Murakami, K., Toyozumi, T., Matsumoto, Y., Kurata, Y., Matsubara, H. (2024). Factors associated with physical activity in patients with upper gastrointestinal cancer during outpatient chemotherapy: A cross-sectional study. Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 11. <https://doi.org/10.1016/j.apjon.2024.100585>
7. Yuguchi, A., Nakajima, T., Ishii, Y., Yoshino, Y., Takahashi, A., Endo, K., Shiko, Y., Kawasaki, Y., Amemiya, A., Torikoe, M., Nakajima, H., Shimojo, N: Prevention of atopic dermatitis in babies by skincare from the newborn period, Int Arch Allergy Immunol 1–5, 2024.
8. 路璐, 北池正, 池崎澄江 (2024). 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの有効性の評価. 千葉看護学会会誌, 30(1), 43-50.
9. 芥田ゆみ, 谷本真理子, 池崎澄江 (2024). 一般病院の看護師による非がん疾患患者へのエンドオブライフケアの実践の自己評価に関連する要因. Palliative Care Research, 19(2), 99-107.
10. 吉田靖代, 石丸美奈, 池崎澄江 (2025). 行政保健師における住民との接触頻度と業務のやりがいの関連: 横断研究. 千葉看護学会会誌, 30(2), 15-22.
11. 石井柚衣, 森恵美, 前原邦江 (2025). オンライン面会における NICU・GCU 児とその親に対するボンディング形成に向けての看護実践. 日本母性看護学会誌, 25(2), 9-16, 2025. (査読あり)
12. 沢田佳志乃*, 雨宮歩, 焼山正嗣, 井澤茉咲, 岡田真林, 小泉湧芽, 北山仁久, 石川愛, 柏戸孝一, 平野成樹 (2025). 大学附属病院認知症外来センター初回受診者の認知機能段階による生活背景と症状. 日本認知症予防学会誌, 14(1), 16-23.

*博士前期課程修了

〔論文等(査読あり)〕

13. 桑原政成, 高田龍平, 宮田大資, 福内友子, 明石直之, 森川渚, 大内基司, 青木雄平, 田中祥朗, 藏城雅文, 丸橋達也, 田中敦史, 水田栄之助, 松隈祐太, 西宮健介, 田中仁啓, 大谷直由, 森田美穂子, 篠原啓介, 山内高弘, 市田公美, 久留一郎, 阿部弘太郎. 尿酸と各疾患との関わり: 最新知見のまとめ. The Role of Uric Acid in Various Diseases: A Summary of Recent Studies Update. 日本痛風・尿酸核酸学会誌 痛風と尿酸・核酸 第49巻 第1号 2025, 11-29

〔論文等(査読なし)〕

14. 安西尚彦, 大内基司, 小林俊介. 薬物の生体内動態—吸収—. 高橋倫子 企画. 学び直す糖尿病・内分泌の薬理学. 糖尿病・内分泌プラクティス Web. 2025; 3(1): 0007. / J Pract Diabetes Endocrinol. 2025; 3(1): 0007.

〔単行書〕

15. 大内基司, 安西尚彦 (分担執筆): 8 消化器系疾患に対する薬物. コメディカルのための薬理学 第4版. 渡邊泰秀・安西尚彦・大内基司 編集. 朝倉書店, 2024.
16. 玉井勇二: 観血的動脈圧モニター. 一般社団法人日本救急看護学会 (編), 救急看護スタンダード, 第1版, 照林社, 268-275, 2024.
17. 大内基司, 安西尚彦 (分担執筆): 第V編 内分泌系薬 24. 糖尿病治療薬. リッピンコット シリーズ イラストレイテッド薬理学 原書8版. 櫻井隆・丸山敬・柳澤輝行 監訳. 丸善出版, 2025.

〔学会発表抄録〕

18. Kurosaki, Y., Imoto, A., Ouchi, M., Morita, A., Kawakami, F., Iizuka, Y., Weyer, K., Mollet, G., Ichikawa, T., Takenaka, T., Nielsen, R., Ishii, N. (2024). Proteinuria causes excessive proliferation and senescence in proximal tubular cells via receptor-mediated endocytosis. 61st ERA Congress. Stockholm, Sweden. (査読あり・国際学会(海外))
19. Inoue, M., Matsumura, A., Tahara, Y., Amemiya, A. (2024, May 13-17). Verification of

Detection Rates by Healthy Subjects for Development of a Detection System for Undressing and Coprophilia to Support Non-Restraint Care. 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))

20. Izutsu, Y., Komuro, N., Arimatsu, N., Matsumura, A., Toyama, K., Tsumura, N., Tahara, Y., Amemiya, A. (2024, 10. 29-11. 1). Development of a Life-Logging Application Using Facial Expressions, Voices, and Actions for the Early Detection of Dementia and Caregiver Mental Fatigue. 2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics, Kitakyushu, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
21. Tahara, Y., Amemiya, A., Akita, S., Yamada, K., Andou, N., Yamaguchi, S., Kato, H., Ishikawa, T., Morita, M., Maezawa, Y., Takei, M., Ohtori, S., & Mitsukawa, N. (2025, February 13). Hand grip strength and key pinch strength in Werner syndrome patients aged 40 to 50: An observational study. *East Asian Forum of Nursing Scholars 2025*, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
22. Tamai, Y., Ikezaki, S. (2025, Feb 13-14). Experiences in Lay Rescuers Performing Bystander Cardiopulmonary Resuscitation in Japan: An Interview Study. INC&EAFONS2025, SEOUL, KOREA. (査読あり・国際学会(海外))
23. Mori, E., Maehara, K., Iwata, H., Kimura, K., Toyama, F., Morita A., Saito, A., Yamada H. (2025, February 13-14). *Development of a blended program combining on-demand education and live online consultations to support first-time parents in adapting to heir parental role from the prenatal to the postnatal period.* 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
24. Ishii, Y., Maehara, K. (2025, February 13-14). *Perceptions Nursing practices to promote parent-infant bonding during virtual visits in the NICU: a literature review.* 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
25. Iwata, H., Ishii, Y., Kosaka, M.*, Terasawa, E., Kakehashi, A.*, Kanazawa, Y., Maehara, K., Abe, S., Seki, M., Kimura, K., Toyama, F., Mori, E. (2025, February 13-14). *Preventive interventions for paternal perinatal depression: a scoping review.* 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
*博士後期課程修了
26. Ohira, M., Watanabe, S., Okumura, Y., Mori, E. (2025, February 13-14). *Development of a hybrid simulation program to enhance obstetric care skills in midwifery students.* 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
27. 清水健生, 目澤守人, 大内基司, 小原信, 野呂瀬準, 藤川大輝, 福尾ゆかり, 加藤浩二, 原広一郎, 秀野武彦 (2024). 精神疾患を合併する糖尿病患者における薬剤管理の複雑化に関する因子の検討 精神科病院における糖尿病療養指導 (第 21 報). 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会. (査読あり・国内学会)【糖尿病 67 巻 Suppl.1 S-190.】
28. 森田亜須可, 寺田節, 大庭建三, 清水章, 藤田朋恵, 大内基司 (2024). 腎臓における 1,5-アンヒドログルシトールの酸化ストレスへの影響. 第 78 回日本栄養・食糧学会大会. (査読あり・国内学会)
29. 中山乃々*, 森恵美, 遠山房絵 (2024, 6. 1). 妊娠期から産後 1 か月までの日本人女性のメンタルヘルス不調への予防的介入の文献検討. 第 42 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, オンライン. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
30. 今井優羽*, 森恵美, 木村佳代子 (2024, 6. 1). 周産期のわが子の喪失体験から次子出産までに母親が抱える想い: 文献検討. 第 42 回千葉県母性衛生学会学術集会, オンライン. (査読あり・国内学会)

*看護学部卒業

31. 坂田弥生*, 前原邦江 (2024, 6. 1). 新型コロナウイルス感染症流行下における国内の出産前教育の看護実践に関する文献検討. 第 42 回千葉県母性衛生学会学術集会, オンライン. (査読あり・国内学会)

*看護学部卒業

32. 竹井元, 堀端康博, 外山史, 林啓太郎, 森田亜須可, 大内基司, 藤田朋恵 (2024). ヒポタウリンはトランスポーター TauT により細胞内取り込まれ, ハムスター精子を保護する. 日本アンドロロジー学会第 43 回学術大会. (査読あり・国内学会)
33. 森田亜須可, 佐藤慶太郎, 清水章, 藤田朋恵, 大庭建三, 大内基司 (2024). 1,5-アンヒドログルシトールの血糖コントロールへの影響ー成熟個体と老齢個体での比較ー. 第 66 回日本老年医学会学術集会. (査読あり・国内学会)
34. 黒川有来*, 森恵美, 前原邦江 (2024, 6. 16). 前回帝王切開術で出産した経産婦の出産に対する態度. 第 26 回日本母性看護学会学術集会, 兵庫. (査読あり・国内学会)

*博士前期課程修了

35. 山下美緒*, 森恵美, 前原邦江 (2024, 6. 16). 第 1 子誕生後に育児休業を取得した男性の父親役割獲得過程の体験. 第 26 回日本母性看護学会学術集会, 兵庫. (査読あり・国内学会)

*博士前期課程修了

36. 湯口梓, 雨宮歩, 沢田佳志乃*, 高谷具純, 中村伸枝 (2024, 7. 15). SAP 療法を行う小児期発症 1 型糖尿病患者のデバイス装着部位と皮膚バリア機能. 第 29 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会, 福岡. (査読あり・国内学会)

*博士前期課程修了

37. 杉田由加里, 飯田貴映子, 黒田久美子, 池崎澄江, 宇野光子, 佐藤十美 (2024, 8. 23-24). 看護管理者だからこそ大学院で学んでみませんか?～現場の課題を解決できるリカレント教育プログラム～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会プログラム集, 47. (査読あり・国内学会)
38. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 中山登志子, 眞嶋朋子, 島田陽子 (2024, 8. 23-24). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の職位別効果～研修前後のコンピテンシーの変化より～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会プログラム集, 53. (査読あり・国内学会)
39. JIANG.DAN, 北池正 (2024, 9. 7). 在日中国人看護師の異文化コミュニケーション能力を育成するプログラムの開発と妥当性確認. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 49. (査読あり・国内学会)
40. JIANG.DAN, 北池正 (2024, 9. 7). 在日中国人看護師の異文化コミュニケーション能力を育成するプログラムの試行による有効性の検証. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 50. (査読あり・国内学会)

41. 松村彩, 有松夏子, 押味千紘, 箕輪隆城, 市田誠, 山初和也, 雨宮歩 (2024, 9. 12-14). 認知症のある高齢者の医療用カテーテル事故抜去リスク動作のアラーム閾値の検証. 第 39 回ライフサポート学会大会 (LIFE2024), 東京. (査読あり・国内学会)

42. 有松夏子, 松村彩, 田原裕希恵, 井筒勇太, 川寄彩恵, 外山幸太, 小室信喜, 津村徳道, 雨宮歩 (2024, 9. 12-14). 地域在住高齢者の日常生活における気分と表情の関係. 第 39 回ライフサポート学会大会 (LIFE2024), 東京. (査読あり・国内学会)

43. 梁健和, 梅原瑞幾, 那須守, 岩崎寛 (2024, 9. 13-14). テレワーク勤務者に対する社寺内緑地のワークプレイス利用に関する意識調査. 日本緑化工学会第 55 回大会, 東京. (査読なし・国内学会)

44. 石田ゆかり, 池崎澄江, 大橋優紀子, 光本篤史 (2024, 10. 4-5). 市町村国保医療費分析における年齢調整前後の差異～5 市町の医療費分析より～. 第 64 回全国国保地域医療学会抄録集, 178. (査読あり・国内学会)

45. 島崎あさな*, 森恵美, 前原邦江 (2024, 10. 18-19). ポジティブな出産体験につながるバースプラン作成への看護実践モデルの開発. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 宮崎. (査読あり・国内学会)

*博士後期課程修了

46. 島崎あさな*, 森恵美, 前原邦江 (2024, 10. 18-19). 助産師がポジティブな出産体験につながったと評価するバースプラン作成への看護ケア. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 宮崎. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
47. 小坂麻衣*, 森恵美, 前原邦江 (2024, 10. 18-19). COVID-19 流行下の家族レジリエンスに着目した初産夫婦へのオンライン産前教育プログラムの開発. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 宮崎. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
48. 木村佳代子, 森恵美, 前原邦江, 遠山房絵, 岩田裕子, 石井柚衣 (2024, 10. 18-19). 出産後早期から修正月齢 2 か月における後期早産児と母親の母子相互作用. 第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 宮崎. (査読あり・国内学会)
49. 松村彩, 有松夏子, 田原裕希恵, 井筒勇太, 外山幸太, 小室信喜, 津村徳道, 雨宮歩 (2024, 11. 2-3). 地域の認知症ケア提供者におけるモバイルヘルスデバイスを用いた生体計測の実現可能性. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川. (査読あり・国内学会)
50. 有松夏子, 松村彩, 田原裕希恵, 井筒勇太, 外山幸太, 小室信喜, 津村徳道, 雨宮歩 (2024, 11. 2-3). 高齢者の日常生活下での音声日記アプリの受容性と実現可能性の検証. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川. (査読あり・国内学会)
51. 井上真緒, 前田茉美, 市田誠, 箕輪隆城太, 押味千紘, 雨宮歩 (2024, 11. 2-3). 脱衣行為検知システムの開発に向けた精度向上のためのセンサの改良. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川. (査読あり・国内学会)
52. 前田茉美, 井上真緒, 有松夏子, 市田誠, 箕輪隆城, 押味千紘, 山初和也, 雨宮歩 (2024, 11. 2-3). 自己抜去予防に向けた接触検知システムの臨床看護師による使いやすさの評価. 第 12 回看護理工学会学術集会, 石川. (査読あり・国内学会)
53. 梅原瑞幾, 那須守, 岩崎寛 (2024, 11. 9-10). 「摘んでよい花壇」の利用実態に関する調査 ―千葉市・花園公園におけるレイズドベッドプロジェクトの事例― 人間・植物関係学会. 園芸療法学会合同大会 2024 神戸大会, 兵庫. (査読なし・国内学会)
54. 梅原瑞幾, 宮澤史穂, 春名由一郎, 稲田祐子, 堀宏隆, 武澤友広, 中野善文 (2024, 11. 14). 中高年齢障害者の雇用管理・キャリア形成支援に関する検討 (その 2) ―事業所及び障害者調査の結果から―, 第 32 回職業リハビリテーション研究・実践発表会, 東京. (査読なし・国内学会)
55. 玉井勇一, 池崎澄江, 平舘宏美, 愛波淳子, 本間洋輔 (2024, 12. 6-7). 身体障がい者 (肢体不自由・視覚・聴覚) の救命処置, 蘇生教育に関する実態調査. 日本蘇生学会第 43 回大会プログラム・抄録, 185. (査読あり・国内学会)
56. 森恵美, 前原邦江, 岩田裕子, 森田亜希子, 木村佳代子, 遠山房絵 (2024, 12. 7-8). 交流集会: 初産夫婦に対するオンライン出産前教育の開発: オンラインによる健康教育の追究と検討. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
57. 福井小紀子, 藤田淳子, 池崎澄江 (2024, 12. 7-8). 顔の見える関係評価尺度短縮版 (FACES) の開発. 第 44 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 45. (国内学会・査読あり)
58. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2024, 12. 7-8). 看護系大学教員を対象とした課題解決型研修におけるピア・コンサルテーション導入の効果. 第 44 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 125. (査読あり・国内学会)
59. 上元達仁, 池崎澄江 (2024, 12. 7-8). 訪問看護管理者のリーダーシップの行動の解明. 第 44 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 172. (査読あり・国内学会)
60. 梅田ゆめな, 田崎牧子, 雨宮歩, 下村義弘, 津村徳道, 増島麻里子 (2025, 2. 22-23). リンパ浮腫の経時的モニタリングとしての Tape measure による四肢周径測定値の精度. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 札幌. (査読あり・国内学会)
61. 森田亜須可, 黒崎祥史, 佐藤慶太郎, 安西尚彦, 大内基司 (2025). ヒト皮膚細胞の生理的濃度における尿酸の効果. 第 58 回日本痛風・尿酸核酸学会総会. (査読あり・国内学会)
62. 池松悠希, 霊園良恵, 大内基司, 安西尚彦 (2024). 腎尿細管における有機酸・尿酸トランスポー

ターOATs とジカルボン酸の相互作用. 第 58 回日本痛風・尿酸核酸学会総会. (査読あり・国内学会)

〔シンポジウム・招聘講演〕

63. 雨宮歩 (2024, 9. 17). 在宅におけるライフログを用いた認知機能低下と介護ストレスの早期発見. 日本学術振興会 R021 食と未病マーカー産学協力委員会第 21 回定例研究会食と未病, 東京.
64. 雨宮歩 (2024, 11. 10). 人生の最期まで尊厳が守られる社会を実現する看護理工学研究. 大人が楽しむ科学教室, 千葉.
65. 田原裕希恵, 雨宮歩, 北川柚香*, 山田香穂子, 安藤暢浩, 大鳥精司, 山口智志, 前澤善朗, 加藤尚也, 石川崇広, 森田光生, 武居昌宏, 秋田新介, 三川信之 (2024, 11. 29-30). 足部足関節評価質問票を用いたウェルナー症候群患者の 1 年後の変化. 第 5 回日本フットケア・足病医学学術集会, 神戸. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
66. 大内基司, 大谷直由, 久留一郎, 安西尚彦 (2024, 12. 13-14). 薬物治療の最前線 高尿酸血症・痛風の治療の進歩, 周辺疾患との関わり. 尿酸トランスポーター, 尿酸排泄促進薬 (ドチヌラド). 第 45 回日本臨床薬理学会学術総会. (国内学会)
67. 前原邦江 (2025, 3. 16). 文化看護学会第 17 回学術集会 鼎談「序章から次章に向けてー文化に根差した看護学の創出に役立つ 4 つの視点と私ー」, 看護学におけるエビデンスの探究と文化看護学の視点. 文化看護学会第 17 回学術集会抄録集, 千葉. (国内学会)

〔受賞 (国内・国外)〕

68. Best presentation Award Finalist
Inoue, M., Matsumura, A., Tahara, Y., Amemiya, A. (2024, May 13-17). Verification of Detection Rates by Healthy Subjects for Development of a Detection System for Undressing and Coprophilia to Support Non-Restraint Care. 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Yokohama. (国際学会(国内))
69. Best Poster Award
Tahara, Y., Amemiya, A., Akita, S., Yamada, K., Andou, N., Yamaguchi, S., Kato, H., Ishikawa, T., Morita, M., Maezawa, Y. Takei, M., Otori, S., & Mitsukawa, N. (2025, February 13-14). Hand grip strength and key pinch strength in Werner syndrome patients aged 40 to 50: An observational study. *East Asian Forum of Nursing Scholars 2025*, Seoul, Korea. (国外・学会)

〔その他〕

70. Amemiya, A. (2024, May 31). Optimizing End-of-Life Happiness: The Future of Nursing through Technology. CHIBADAINEXT. https://www.cn.chiba-u.jp/en/next_e240531/
71. 大内基司 (2024, 9. 8). 第 2 部 「痛風・尿酸核酸領域のアップデート」. 尿酸と糖尿病の関連: 最近のエビデンスのアップデート. 公益財団法人 痛風・尿酸財団主催 第 35 回痛風・尿酸研修会.
72. 大内基司 (2024). 多職種で教えます! ～多世代で考えるフレイル予防～ 1.フレイルって何?. 2024 年度千葉大学看護学部公開講座 (亥鼻祭).
73. 武石陽子, 桑名健太, 吉田美香子, 雨宮歩, 金澤悠喜, 北村言, 楠田佳緒, 三原陽一郎, 長江祐吾, 吉本佳世 (2024). 看護・工学・企業が多職種の視点から現場のニーズを明確にする. 看護理工学会ニュースレター13 号.

〔特許〕

74. 山下(雨宮)歩, 松島絵里奈, 古川恭彦: 体圧分散衣服. 特開 7555068.
75. Yamashita (Amemiya), A., Matsumura, A., Ichida, M., Minowa, T. (2025): Contact Motion Determining Module and Biological Contact Detection Device Using Same. (米国出願).

地域創成看護学講座

〔原著〕

1. Suzuki, S., Sato, N., Miyazaki, M. (2024). Maternal experiences of pregnant women affected by natural disasters: A modified grounded theory approach. *Nursing and Health Sciences*, 26(2): e13135. <https://doi.org/10.1111/nhs.13135>
2. Yumoto, A., Suwa, S. (2024). Daily Life Experiences of People with Dementia with Lewy Bodies: A Qualitative Study. *Sage Open*. <https://doi.org/10.1177/21582440241287659>
3. Ide, H., Suwa, S., Akuta, Y., Kodate, N., Tsujimura, M., Ishimaru, M., Shimamura, A., Kitinoja, H., Donnelly, S., Hallila, J., Toivonen, M., Bergman-Kärpijoki, C., Takahashi, E., & Yu, W. (2024). A comparative study to elucidate factors explaining willingness to use home-care robots in Japan, Ireland, and Finland. *Scientific Reports*, 14(1), 27656. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-79414-y>
4. Sato T., Ishimaru M. (2024). Measures and factors for regularly and effectively holding case conferences to improve quality of care provided by public health nurses for individuals and families: A qualitative descriptive study. *Public Health Nursing*, 41(6), 1551-1561. <https://doi.org/10.1111/phn.13392>
5. Hotta, K., Ishimaru, M. (2024). The meaning in group volunteering and its influence on the well-being of community-dwelling older volunteers in Japan: a qualitative study. *Archives of Gerontology and Geriatrics Plus*. 1(4). <https://doi.org/10.1016/j.aggp.2024.100086>
6. Iida, K., Ishimaru, M., Tsujimura, M., & Wakasugi, A. (2025). Community-dwelling older people's experiences of advance care planning with health care professionals: a qualitative systematic review. *JBI Evidence Synthesis*, 23(1), 69-107. <https://doi.org/10.11124/JBIES-23-00221>
7. 川上奈々, 諏訪さゆり (2025). 統合失調症を有する長期入院患者の社会復帰支援に関する民間精神科病院の看護師の認識の様相. 千葉看護学会会誌, 30(2), (印刷中).
8. 吉田靖代, 池崎澄江, 石丸美奈 (2025). 行政保健師における住民との接触頻度と業務のやりがいの関連: 横断研究. 千葉看護学会会誌, 30(2), 15-22.

〔論文等(査読あり)〕

9. 小川真紀子 (2024). 精神科訪問看護におけるリハビリ志向の服薬支援に関する質的分析. 精神障害者リハビリテーション, 28(1), 77-83.
10. 石丸美奈, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 飯野理恵, 諏訪さゆり, 宮崎美砂子 (2024). 社会資源創出に関するシナリオ学習教材の開発プロセス. 日本地域看護学会誌, 27(3), 35-42. https://doi.org/10.20746/jachn.27.3_35
11. 関口貴恵*, 宮崎美砂子, 佐藤奈保 (2024). 指定避難所の拡大する機能と役割に関する文献検討ー避難生活の場としての避難所から避難所外避難者への支援活動に着目してー. 日本災害看護学会誌, 25(3), 59-70.
*5 年一貫制博士課程修了
12. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2025). 老人クラブ活動にみる認知症の「共生」と「予防」: 機関紙分析による予備的調査. 認知症ケア事例ジャーナル, (印刷中)

〔論文等(査読なし)〕

13. 周璐, 諏訪さゆり (2024). 介護老人保健施設の入所高齢者 3 例に対する夜間排泄の個別ケアによる睡眠への影響の検証 (事例研究). 看護研究集録, 31, 46-60.

〔単行書〕

14. 岡本聡美: 第 6 章 健康逸脱からの回復を促す看護 C 身体疾患のある高齢者の看護, 10 変形性関節症, 11 骨折. 北川公子 (編集代表), 系統看護学講座 専門看護学 老年看護学, 第 10 版, 医学書院, 276-282, 2025.
15. 石丸美奈: 第 1 章 発達段階の特性に応じた活動論Ⅱ 成人・高齢者保健福祉活動 1 健康づく

- り活動 2. 生活習慣病予防活動. 宮崎美砂子他 (編), 最新公衆衛生看護学各論 1, 第 3 版 2025 年度版, 日本看護協会出版会, 88-135, 2025.
16. 佐藤太一: 事例 1 生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み. 宮崎美砂子, 北山三津子他 (編), 最新公衆衛生看護学総論. 第 3 版 2025 年版, 日本看護協会出版会, 10, 2025.
 17. 宮崎美砂子: 第 1 章 公衆衛生看護学総論, 宮崎美砂子, 北山三津子他 (編), 最新公衆衛生看護学総論, 第 3 版 2025 年度版, 日本看護協会出版会, 2-24, 2025.
 18. 宮崎美砂子: 第 2 章 地区活動論, 宮崎美砂子, 北山三津子他 (編), 最新公衆衛生看護学総論, 第 3 版 2025 年度版, 日本看護協会出版会, 122-145, 2025.
 19. 宮崎美砂子: 第 4 章 公衆衛生看護学研究, 宮崎美砂子, 北山三津子他 (編), 最新公衆衛生看護学総論, 第 3 版 2025 年度版, 日本看護協会出版会, 322-358, 2025.
 20. 宮崎美砂子: 第 3 章 公衆衛生看護管理活動論, 宮崎美砂子, 北山三津子他 (編), 最新公衆衛生看護学各論 2, 第 3 版 2025 年度版, 日本看護協会出版会, 200-223, 2025.
 21. 諏訪さゆり: 3 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 3 在宅. 堀内ふき他 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害, 第 8 版, メディカ出版, 158-164, 2025.
 22. 湯本晶代: 2 高齢者を取り巻く社会 4 高齢者看護・介護とテクノロジー. 堀内ふき他 (編), ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害, 第 8 版, メディカ出版, 122-129, 2025.

〔学会発表抄録〕

23. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2024). 老人クラブ活動にみる認知症の「共生」と「予防」機関誌分析による予備的調査. 日本認知症ケア学会誌, 23(1), 218. (査読あり・国内学会)
24. 杉村美広, 島村敦子, 諏訪さゆり (2024). 初回訪問における訪問看護熟練者の自覚情報の収集と思考のプロセス. 第 44 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 05-06. (査読あり・国内学会)
25. 小林信, 須藤公裕, 神澤尚利, 寺岡征太郎, 寺田美樹, 則村良, 田上美千佳 (2024, 6. 1). 精神力動論からケアを導く精神看護の事例検討, 日本精神保健看護学会第 34 回学術集会抄録集, 77.
26. 清信友麻*, 田上美千佳, 鈴木美央, 片山直子** (2024, 6. 1). 東京電力福島第一原子力発電所事故後に故郷へ帰還した高齢者の心理的变化. 日本精神保健看護学会第 34 回学術集会抄録集, 145. (査読あり・国内学会)
27. 石坂晴奈*, 諏訪さゆり (2024). 認知症高齢者の排泄における生活障害とケアの知識の構造化 — AI によるケア提供者支援に向けて —. 日本認知症ケア学会誌, 23(1), 144. (査読あり・国内学会)
28. *博士後期課程修了周璐, 諏訪さゆり (2024). 非接触型睡眠計を活用して認知症高齢者の夜間睡眠の改善を目指した取り組み. 日本認知症ケア学会誌, 23(1), 150. (査読あり・国内学会)
29. 實石幸穂*, 諏訪さゆり (2024). 第 25 回日本認知症ケア学会大会 入院高齢患者における閾値下せん妄の発症予測モデルの検討—機械学習の手法を用いて—. 日本認知症ケア学会誌, 23(1), 178. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
30. 佐藤太一 (2024, 6. 29-30). 保健師の職場内教育 (OJT) としての事例検討会を推進するためのガイドブックの有効性の検証 質的データを用いて. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 115. (査読あり・国内学会)
31. 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子 (2024, 6. 29-30). 予防活動に対して市町村中堅期保健師に求められる実践技術. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 117. (査読あり・国内学会)
32. 鈴木悟子, 石丸美奈, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 井口紗織, 牛尾裕子, 斎藤美矢子, 村上祐里香 (2024, 6. 29-30). 認知症を有する人との共生を目指した多様な主体の連携や協働に関する保健医療福祉職の研修ニーズ. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 150. (査読あり・国内学会)
33. 阿部日向子*, 石丸美奈, 佐藤太一, 岩瀬靖子, 坂井文乃 (2024, 6. 29-30). コロナ禍における対人活動規制に伴い看護学部の新入生に生じたストレスとその対処行動. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 156. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業

34. 磯村真由子*, 諏訪さゆり (2024, 8. 23-24). 急性期病院一般病棟看護師の退院支援実践力向上を目指してー退院支援プロセスにおける業務支援と専門職共同振り返りの会の有用性. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, 名古屋. (査読あり・国内学会)
35. 鈴木美央, 田上美千佳, 田原郁恵** (2024, 8. 24). 精神科病棟への入院を経験した人が抱く入院から退院後の生活への認識と看護. 第 50 回日本看護研究学会学術集会講演集, 174. (査読あり・国内学会)
**本研究院教員
36. 宇都宮里桜*, 田原郁恵**, 鈴木美央, 廣島薫留, 田上美千佳 (2024, 8. 24). 看護大学生のメンタルヘルス: 対人関係・対人不安との関連. 第 50 回日本看護研究学会学術集会講演集, 177. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業, **本研究院教員
37. 荒井千尋*, 石丸美奈, 佐藤太一, 岩瀬靖子, 坂井文乃 (2024, 9. 7). 乳幼児健診における母親が捉える育児情報のニーズと保健師の支援のあり方. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 53. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
38. 野口真悠花*, 石丸美奈, 佐藤太一, 岩瀬靖子, 坂井文乃 (2024, 9. 7). 父親のニーズを踏まえた妊娠期から育児期における父親支援プログラムの文献検討. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 54. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
39. 佐藤愛美*, 湯本晶代, 飯田貴映子, 諏訪さゆり (2024, 9. 7). 訪問看護師が行っている医療的ケア児のきょうだい児支援を主とした家族支援. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 55. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
40. 竹田藍*, 岩瀬靖子, 石丸美奈, 佐藤太一, 坂井文乃 (2024, 9. 7). 在宅に移行する医療的ケア児とその家族への個別支援における行政保健師の実践の文献検討. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 56. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
41. 石坂晴奈* (2024). ケア専門職がとらえた認知症高齢者の排泄ケアに関する知識構造化およびその活用方法. 研究報告高齢社会デザイン (ASD), 2024-ASD, 30(22), 1-9. (査読あり・国内研究会)
*博士後期課程修了
42. 雨宮有子, 奥田博子, 春山早苗, 岩瀬靖子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 吉川悦子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2024, 10. 29-30). 県型保健所調査による災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイドの検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 530. (査読あり・国内学会)
43. 奥田博子, 宮崎美砂子, 春山早苗, 岩瀬靖子, 尾島俊之, 雨宮有子, 吉川悦子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 築場玲子, 相馬幸恵, 草野富美子, 井口紗織, 花井詠子 (2024, 10. 29-30). 都道府県庁調査による災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイドの検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 530. (査読あり・国内学会)
44. 吉川悦子, 春山早苗, 宮崎美砂子, 雨宮有子, 岩瀬靖子, 奥田博子, 尾島俊之, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2024, 10. 29-30). 保健所設置市調査による災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイドの検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 530. (査読あり・国内学会)
45. 井口紗織, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 花井詠子 (2024, 10.29-30). 災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイド (本編及び別冊) の提示. 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 531. (査読あり・国内学会)
46. 岩瀬靖子, 春山早苗, 奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 吉川悦子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 島田裕子, 市川定子 (2024, 10. 29-30). 市町村調査による災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイドの検討. 第 83 回日本公衆衛生

学会総会抄録集, 531. (査読あり・国内学会)

47. Watanabe, A., Hashimoto, Y., & Tanoue, M. (2024, Nov 14-17). The Impact of Japanese Mourning Rituals on The Spirituality of Older People with Dementia, 24th WPA World Congress of Psychiatry. Mexico City, Mexico. (査読あり・国際学会(海外))
48. 藤澤榮, 島田恵, 清水崇志, 進藤亜子, 堂元奈津子, 原田明裕, 柳沢雅子, 宮石奉枝, 渡會睦子 (2024, 11.28-29). 東京都エイズ・ピア・エデュケーション事業におけるエデュケーター育成に関する分析と今後の展望. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集, 500. (査読あり・国内学会)
49. Imazu, Y., Sasaki, Y., Kondo, A., Yamada, S., Azechi, H., Hayashi, C., Miyazaki, M., Sato, N., Noguchi, M., Ogata, A., Mashino, S., Kinoshita, M. (2024, November 30-December 1). Disaster Nursing Global Leader Program: Ten years' achievement in cooperative graduate education program. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 151, Kobe. (査読あり・国際学会(国内))

*看護学部卒業, **本研究院教員

50. 鈴木美央, 田上美千佳, 寺岡征太郎, 大久保豪 (2024, 12. 7-8). 精神科訪問看護師による精神疾患患者の家族支援の実践と課題(その1): 支援の実践状況と重要性の認識の違い. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
51. 田上美千佳, 鈴木美央, 寺岡征太郎, 大久保豪 (2024, 12. 7-8). 精神科訪問看護師による精神疾患患者の家族支援の実践と課題(その2): 訪問看護師の関心や経験との関連. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
52. 田原郁恵**, 田上美千佳, 鈴木美央 (2024, 12. 7-8). 中規模事業場のメンタルヘルス不調者の復職支援における産業看護職による管理監督者支援の課題. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)

**本研究院教員

53. 高野栞里*, 田上美千佳, 鈴木美央, 田原郁恵** (2024, 12. 7-8). 双極性感情障害患者の男性配偶者が抱える日常生活上への影響と困難. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)

*博士前期課程修了, **本研究院教員

54. 長野真澄, 田上美千佳, 鈴木美央 (2024, 12. 7-8). 海外の精神科看護外来の遠隔医療に関する文献検討. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
55. 清水崇志, 田上美千佳, 片山健浩, 鈴木美央 (2024, 12. 7-8). 精神科外来および通院医療機関におけるデジタルテクノロジーを用いたケアの実態: スコーピングレビュー. 第44回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
56. 實石幸穂*, 諏訪さゆり (2024, 12. 7-8). 第44回日本看護科学学会学術集会 AI を用いた高齢者におけるせん妄発症予測モデル開発に向けた検討 一経時的データに着目して-. 第44回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 83. (査読あり・国内学会)

*博士後期課程修了

57. 山本裕美, 新井瑞季, 佐藤太一, 塚原洋子 (2025, 1. 4-5). 31年継続している保健師による自主検討会「PP会」での活動についての考察(第1報): 設立経緯と活動概要. 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 229. (査読あり・国内学会)
58. 田部晃佑, 村上理奈, 山城直子, 佐藤太一, 塚原洋子 (2025, 1. 4-5). 31年継続している保健師による自主検討会「PP会」での活動についての考察(第2報): 大規模な結構危機発生時の活動内容から. 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 230. (査読あり・国内学会)
59. 松浦めぐみ, 石丸美奈 (2025, 1. 4-5). 医療的ケア児(者)及び家族に対する看護実践の現状と課題: 文献検討. 第13回日本公衆衛生看護学会講演集 293. (査読あり・国内学会)
60. 佐藤太一 (2025, 1. 4-5). 保健師の職場内教育(OJT)としての事例検討会を推進するためのガイドブックの有効性の検証 量的データを用いて. 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 306. (査読あり・国内学会)
61. 佐藤太一 (2025, 1. 4-5). 保健師の職場内教育(OJT)としての事例検討会を推進するためのガイドブックの有効性の検証: 量的データを用いて. 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 306. (査読あり・国内学会)

62. Satomi, Okamoto, Sayuri, Suwa. (2025, Feb 13-14). Development of an Environmental Design Guide for Elderly People with Dementia in Japanese General Hospital Wards. EAFONS2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
63. Yuka, Nakao, Sayuri, Suwa. (2025, Feb 13-14). Literature Review of Treatment Decision-making for Older Patients with Cancer and Dementia, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
64. Minori, Tokui, Sayuri, Suwa. (2025, Feb 13-14). A study of cultural care for Japanese older nuns with dementia: Qualitative descriptive survey to clarify the lifestyles of older nuns. EAFONS2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
65. Minori, Tokui, Sayuri, Suwa. (2025, Feb 13-14). A study of cultural care for Japanese older nuns with dementia: Making the cultural care guidance for the older nuns with dementia. EAFONS2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
66. Lu, Zhou, Sayuri, Suwa. (2025, Feb 13-14). Improving sleep quality and daily rhythm for older resident with dementia using a non-wearable sleep monitor -A case study report. EAFONS2025, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
67. Yoshino, Sasaki, Mina, Ishimaru, Seiko, Iwase, Taichi, Sato. (2025, Feb 13-14). Drinking-related self-control behaviors and their associated factors among working older men, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
68. Mina, Ishimaru, Seiko, Iwase, Saori, Iguchi, Taichi, Sato, Yuko, Ushio, Miyako, Saito, Yurika, Murakami, Satoko, Suzuki, Ayano, Sakai. (2025, Feb 13-14). Verifying the validity and practicality of an educational program to create a dementia-inclusive and mutually supportive community involving various actors 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
69. 中尾有花, 岩朝勤 (2025, 3. 6-8). 認知機能障害のあるがん患者 3 例の治療選択のための意思決定支援. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会. (査読あり・国内学会)
70. 島村敦子, 湯本晶代, 辻村真由子, 上野まり, 諏訪さゆり (2025, 3. 16). 日本の看護学研究論文における人と人との関わりが生じる場での「空気」に関する文献的考察. 文化看護学会第 17 回学術集会, 42. (査読あり・国内学会)

〔シンポジウム・招聘講演〕

71. 田上美千佳, 永井優子, 南裕子, 中山洋子, 武井麻子 (2024, 5. 31). 共に語り合おう！日本精神保健看護学会の歴史と今後のあり方. 日本精神保健看護学会第 34 回学術集会抄録集, 145.
72. 田上美千佳 (2024, 9. 28). 研究の基本を学ぶセミナー②楽しく研究活動をしよう 1: 価値のある研究テーマを考えよう. 第 55 回日本看護学会学術集会.
73. 村井早苗, 岡村敦, 石丸美奈, 関谷昇 (2025, 3. 16). 文化看護学会第 17 回学術集会 対話型教育講演: 人生 100 年時代を最期まで地域で暮らす (オンデマンド). 文化看護学会第 17 回学術集会抄録集, 25-26.
74. 安積遊歩, 佐藤太一, 飯田貴映子, 坂井文乃, 杉田由加里, 富岡晶子 (2025, 3. 16). 障害をもつ当事者として, 女性として, 親として, 地域の真ん中で自由に生きる ー違う身体をもつ介助者と向き合いながら構築する対等な気持ちのよい介助を基盤にー (オンデマンド). 文化看護学会第 17 回学術集会抄録集, 27-28.

〔受賞(国内・国外)〕

75. 日本地域看護学会第 27 回学術集会優秀演題賞
佐藤太一 (2024). 保健師の職場内教育 (OJT) としての事例検討会を推進するためのガイドブックの有効性の検証 質的データを用いて. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 115. (国内・学会)
76. 2024 年度日本精神障害者リハビリテーション学会野中賞優秀賞
鈴木美央, 森千鶴 (2023). 入院中の統合失調症をもつ人の心の理論とワーキングメモリを高める

プログラムの開発と有用性の検証. 27(1), 55-64. (国内・学会)

77. 2024 年度日本認知症ケア学会石崎賞
石坂晴奈* (2024). 認知症高齢者の排泄における生活障害とケアの知識の構造化. 第 25 回日本認知症ケア学会大会, 23(1)144. (国内・学会)
*博士後期課程修了
78. 第 44 回日本看護科学学会学術集会優秀演題ポスター発表賞
實石幸穂*, 諏訪さゆり (2024). AI を用いた高齢者におけるせん妄発症予測モデル開発に向けた検討ー経時的データに着目してー. 第 44 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 83. (国内・学会)
*博士後期課程修了
79. 一般社団法人日本私立看護系大学協会 2024 年度研究助成事業「看護学研究奨励賞」
Zhou L, Suwa S: Association among cognitive function, daytime activities, and nighttime sleep in older adults in a long-term care facility, Japan Journal of Nursing Science, e12571, 2023. (国内)

〔その他〕

80. 宮崎美砂子 (2024, 5. 13). 災害時の保健活動ー災害時に備えるー. 千葉県市町村保健活動連絡協議会, 千葉市.
81. 宮崎美砂子 (2024, 6. 13). 自治体における災害時保健活動推進に向けて. 令和 6 年度高知県保健師人材育成研修, オンライン.
82. 岩瀬靖子 (2024, 6. 24). 令和 6 年度市原市保健師記録研修. 現場で役立つ支援記録の書き方〜わかりやすい書き方のポイント. 対面.
83. 石丸美奈, 川崎涼子, 松井理恵, 阿部宏史, 佐藤太一, 成瀬昂, 板谷智也, 岡野明美, 堀地諒, 蔭山正子 (2024, 6. 29-30). 次世代育成推進委員会主催「引き出しあい、つながる場」〜こんなことやってみたいを共有しませんか?〜. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 105.
84. 石丸美奈 (2024, 8). 令和 6 年度新任期 II 保健師研修会 (前期). 個別支援と地区診断. オンデマンド.
85. 石丸美奈 (2024, 8). 令和 6 年度新任期 II 保健師研修会 (前期). 地区組織・関係機関との連携による効果的な保健師活動の展開. オンデマンド.
86. 石丸美奈 (2024, 8). 令和 6 年度新任期 II 保健師研修会(前期). 保健師としてのキャリア形成. オンデマンド.
87. 岩瀬靖子 (2024, 8). 令和 6 年度新任期 II 保健師研修会. 災害時の保健活動について. オンデマンド.
88. 岩瀬靖子 (2024, 8. 27). 令和 6 年度市原市災害時保健活動対応研修会. 避難所における保健活動の応用〜事例を通して考える. 対面.
89. 岩瀬靖子 (2024, 9. 3). 令和 6 年度新任期 II 保健師研修会. 災害時の保健活動と平常の保健活動の連動. 対面.
90. 永井優子, 田上美千佳 (2024). 第 34 回学術集会シンポジウム I 「ともに語り合おう!日本精神保健看護学会の歴史と今後のあり方」開催報告, 日本精神保健看護学会 e-Mail ニュースレター101号 (08/20).
91. 田上美千佳, 永井優子 (2024). 共に語り合おう!日本精神保健看護学会の歴史と今後のあり方: 30 年間の学術活動からこれからの本学会に託されたこと. 日本精神保健看護学会誌, 33(2), 116-120.
92. 鈴木美央 (2024). 看護の現場で実践できるフィジカルアセスメント II 第 14 回精神状態のアセスメント. 千葉県看護協会機関誌 看護ちば, 149, 12.
93. 鈴木美央 (2024). 看護の現場で実践できるフィジカルアセスメント II 第 15 回ストレスとストレスマネジメント. 千葉県看護協会機関誌 看護ちば, 150, 12.
94. 鈴木美央 (2024). 看護の現場で実践できるフィジカルアセスメント II 第 16 回コミュニケーション機能のアセスメント. 千葉県看護協会機関誌 看護ちば, 151, 12.

95. 江波戸和子, 安保寛明, 村田涼子 (2024). 日本精神科看護学術集会誌, 66(2), 15-157.
96. 村田涼子, 江波戸和子 (2024). がん患者をケアする看護師の共感疲労への支援の実際 最近5年間の国外の介入研究に焦点をあてて. 日本精神科看護学術集会誌, 66(2), 99-103.
97. 岩瀬靖子 (2025). 安心して心豊かに生活できる地域づくりに貢献できる看護職を目指して, タウンタより わが街 東千葉 (ミニコミ誌), 第12号.
98. 石丸美奈 (2025, 1. 29). 令和6年度新任期II保健師研修会(後期). 住民活動の発展段階と必要な支援. 対面.
99. 石丸美奈 (2025, 1. 29). 令和6年度新任期II保健師研修会(後期). 新任期保健師から中堅期保健師へ. 対面.
100. 岩瀬靖子 (2025, 3. 4). 令和6年度千葉県保健活動業務研究発表会 分科会における助言および全体講評. 対面.

文化看護学

〔原著〕

1. Tobise, M., Nyamadzawo, A., Saito, S. (2024) State of infection prevention knowledge among healthcare professionals in Japan: a questionnaire survey analysis using text mining. *Journal of Hospital Infection*, 154, 29-36. <https://doi.org/10.1016/j.jhin.2024.09.001>
2. 中條華子, 山本利江, 斉藤しのぶ (2024). 高齢者施設における医療依存度・介護度の高い入所者の日常的なケア場面で発揮される生活機能ー毎日の口腔ケア場面よりー. 千葉看護学会会誌, 30(2). (査読あり・国内学会) (印刷中)
3. 池田結, 斉藤しのぶ (2024). 看護過程における健康観活用の影響 ー看護実践当事者による事例研究ー. 千葉看護学会会誌, 30(2). (査読あり・国内学会) (印刷中)

〔報告書〕

4. 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2024). コロナ禍における基礎看護学実習の代替策としたシミュレーション演習の取り組みー模擬患者の状況に合わせて段階的に看護過程を展開した学生の学びー. 千葉看護学会会誌, 30(1), 51-60. (査読あり・国内学会)

〔学会発表抄録〕

5. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2024). 看護系大学教員を対象とした課題解決型研修におけるピア・コンサルテーション導入の効果. 第44回日本看護科学学会学術集会講演集, O49-01. (査読あり・国内学会)
6. 山下巧, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣, 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2024). VRを用いた看護教育ゲーミフィケーションの検討. 映像情報メディア学会 2024年冬季大会, 12B-3. (査読あり・国内学会)
7. Saito, S., Tobise, M., Kawabe, F. (2025, February 13). *The reality of students' knowledge acquisition by flipped classroom in basic nursing education*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea (In Print) (査読あり・国際学会(海外))
8. Tobise, M., Shinozuka, S., Saito, S. (2025, February 13). *Characteristics of nursing practice supporting patients in exercising daily living functions in busy environments*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea (In Print) (査読あり・国際学会(海外))
9. Tobise, M., Saito, S. (2025, February 13). *Visualization of Microorganisms and Particles in the Medical Environment for the Development of Infection Prevention Education Programs*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025, Seoul, Korea (In Print) (査読あり・国際学会(海外))

専門職育成学

〔原著〕

1. 植田満美子, 舟島なをみ, 中山登志子 (2025). 再就職を目指す潜在看護師の経験－再就職を実現した者と実現していない者の経験のメタ統合－. 看護教育学研究, 34(1), 9-25.
2. 上國料美香, 舟島なをみ, 中山登志子, 植田満美子, 横山京子(2025). 「患者安全のための医療事故防止能力－ICU 看護師用－」の開発. 日本看護科学会誌,44. (in press)
3. Suto, S., Nakayama, T. (2025). *Development of a Learning Needs Assessment Tool for Perioperative Nurses: A Methodological Study*, Nurse Education Today, 148, 106621.

〔論文等(査読あり)〕

4. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2024). IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ. 文化看護学会誌. 16(1), 55.

〔論文等(査読なし)〕

5. 中山登志子 (2025). 看護卒後教育研究への着手と継続－研究指導の質向上を目指して－. 看護教育学研究. 34(1). 1-8.

〔報告書〕

6. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗, 富永嘉子, 高野佳奈, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 6 年度事業報告書, 2024. (印刷予定)

〔学会発表抄録〕

7. 孫佳茹 (2024, 5. 25-26). 2000 年以降ボーイスカウト研究のトレンドの可視化へのチャレンジャー AI ソフトによるテキスト解析の結果. ボーイスカウト日本連盟全国大会 2024 (令和 6) 年度 全国大会. (査読なし・国内集会)
8. 葉山奈美, 笠井大, 井出成美, 孫佳茹, 下井俊典, 臼井いづみ, 鈴木紀行, 石川雅之, 関根祐子, 平田慎之介, 鈴木拓児, 中口俊哉, 石井伊都子, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2024) JSME56 特別企画 5 専門職連携教育における初回グループワークで生じる医療系学生の沈黙の要因の検討. 医学教育, 第 56 回日本医学教育学会大会予稿集, 55(suppl), 49. 2024.
9. 中山登志子, 舟島なをみ (2024). 「研究指導能力自己評価尺度－修士論文指導用－」の開発. 日本看護学教育学会誌 (第 34 回日本看護学教育学会学術集会プログラム・抄録集), 34, 138, 東京. (査読あり・国内学会)
10. 中山登志子, 舟島なをみ (2024). 看護系大学院の博士論文指導に携わる教員の研究指導経験の解明. 看護教育学研究 (日本看護教育学学会第 33 回学術集会講演集), 33(2), 10-11, 前橋. (査読あり・国内学会)
11. 植田満美子, 舟島なをみ, 中山登志子 (2024). 再就職を目指す潜在看護師の経験, 看護教育学研究 (日本看護教育学学会第 33 回学術集会講演集), 33(2), 14-15, 前橋. (査読あり・国内学会)
12. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和泉淑子, 黒田久美子, 中山登志子, 眞嶋朋子, 島田陽子(2024, 8. 23-24). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の職位別効果～研修前後のコンピテンシーの変化より. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, 名古屋. (査読あり・国内学会)
13. 下井俊典, 井出成美, 孫佳茹, 齊藤可紗, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2024, 11. 10). 玄鼻 IPE: クリニカル IPE の学習効果および学生の行動内容. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 62, (査読あり・国内学会)
14. 辻野拓也, 酒井郁子, 野崎章子, 飯田貴映子, 飯野理恵, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき(2024, 11. 10). グローバル IPE プログラムによる多職種連携能力向上効果検証: 千葉大学とシンビオシス国際大学学生の比較, 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 81, (査読あり・国内学会)

15. 山内かづ代, 野崎章子, 辻野拓也, 飯田貴映子, 飯野理恵, 鋪野紀好, 荒木信之, 伊藤彰一, 酒井郁子 (2024). 非都市部におけるグローバル IPE の可能性: 海外学生受け入れが地域組織と住民にもたらす多面的効果. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 85, (査読あり・国内学会)
16. 田代真子*, 中山登志子, 植田満美子 (2024, 12. 7-8). 看護系大学卒業直後の学生が看護系大学院修士課程への進学を決定した理由. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程 1 年
17. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和泉淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2025). 看護系大学教員を対象とした課題解決型研修におけるピア・コンサルテーション導入の効果. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
18. 下井俊典 (2024, 12. 14-15). 理学療法新入生が有する学習観と学習動機の関係. 第 13 回日本理学療法教育学会学術大会.
19. Ueda, M., Funashima, N., Nakayama, T. (2025.2.13-14). *Difficulties Inactive Nurses Face in Returning to Work: A Qualitative Study to Consider Support through Continuing Nursing Education*, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
20. Ishizuka, S.*, Nakayama, T., Ueda, M. (2025.2.13-14). *Trends in National and International Research Focused on Nurses' Experiences Contributing to Career Development*, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
*博士前期課程 1 年
21. Suzuki, H.*, Nakayama, T., Ueda, M. (2025.2.13-14). *Trends in National and International Research Focused on Nurses with Developmental Disorders or Characteristics of Developmental Disorders*, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
*博士前期課程 1 年

〔シンポジウム・招聘講演〕

22. 井出成美 (2024). シンポジウム I 専門職連携教育 (IPE) の地域社会への展開～IPE から IPW へ 2) 諸機関と共に創る IPE の地域展開. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 17 (査読あり・国内学会)
23. 下井俊典 (2024). パネルディスカッション 「リハビリテーション専門職の臨床生理学的視座」 抹消神経の神経難病患者に対する表面筋電図を活用した筋疲労特性に関する研究. 日本臨床生理学会雑誌第 61 回総会抄録号, 54(4), 90.
24. 下井俊典 (2025). シンポジウム 一多職種連携教育の深化に向けた実践報告一. 全国大学理学療法教育学会.
25. 孫佳茹 (2025). スカウティング研究フォーラム 「スカウトライブラリーの価値を探るーその根拠となる 1 冊を探してー」

〔その他〕

26. 酒井郁子, 朝比奈真由美, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 令和 6 年度新入職員研修 多職種参加型研修専門職連携 (IPW). 講師
27. 下井俊典 (2024). 岐阜大学大学院医学系研究科 医療者教育学専攻修士課程 「医療における多職種協働と地域連携」 講師
28. 下井俊典 (2024). 福祉用具プランナー管理指導者養成研修 (起居移乗コース) 講師 公益財団法人テクノエイド協会
29. 下井俊典 (2024). 日本理学療法士臨床認定カリキュラム審査部会 部会員.
30. 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 自治労都区・政令市共闘会議民生部会, 記念講演「職場のコミュニケーションスキル」

31. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 特定行為研修「チーム医療演習」千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター.
32. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 高齢者ケア施設で働く看護管理者研修 講師および演習支援. 宮城県看護協会, (現地開催)
33. 孫佳茹 (2024). 群馬大学大学院 第 11 回群馬大学 IPE トレーニング 2024 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース
34. 下井俊典 (2024). 2024 年度 全国リハビリテーション学校協会 教員研修会「学習者中心の授業をつくってみよう インストラクショナル・デザインに基づいた教育設計」
35. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 第 23 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 研修 ヘルスケアシステム論Ⅱ 講師. 千葉県看護協会.
36. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 進路探求型研究プログラム. 講師. 栃木県立小山高等学校
37. 下井俊典 (2024). 多職種連携に必要な人材育成. 講師. 独立行政法人国立病院機構本部.
38. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗 (2024). 第 20 回千葉市連携室連絡会講師 千葉市内病院の地域連携室スタッフに向けて 多職種連携の課題解決ー対立の解決の戦略. (在宅医療・介護連携支援センター)
39. 下井俊典 (2024). 2024 年度 全国リハビリテーション学校協会 教員研修会 「インストラクショナル・デザインって何だ」全国リハビリテーション学校協会. オンデマンド配信
40. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗 (2024). 令和 6 年度国立障害者リハビリテーション病院看護研修会 高齢者への尊厳あるケアを考える. 国立障害者リハビリテーション病院.
41. 下井俊典 (2024). 第 18 回全国大学理学療法学会教育学会における講師 シンポジスト 2 「多職種連携教育の深化に向けた実践報告」
42. 井出成美 (2024). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 対立の解決のための戦略.
43. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解. (オンライン)
44. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン)
45. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル. (オンライン)
46. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス. (オンライン)
47. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン)
48. 下井俊典 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作.
49. 孫佳茹 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション.
50. 齊藤可紗 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク私の仕事紹介. (オンライン).
51. 植田満美子 (2024, 11. 30). 項目反応理論を適用した尺度開発における質問項目の選択. 日本看護教育学会令和 6 年度第 6 回定例会, 千葉.
52. 中山登志子 (2024). 札幌市立大学大学院看護学研究科博士前期課程 「継続教育特論」講師. (オンライン)
53. 中山登志子 (2024). 認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修「人材管理Ⅰ」講師. IMS 医療従事者生涯教育センター. 東京.
54. 中山登志子 (2024). 実習指導者講習会 「教育評価」講師. IMS 医療従事者生涯教育センター. 東京.
55. 中山登志子 (2024). 実習指導者講習会 「実習指導原理と評価 (総論)」講師. 岡山県看護協会. 岡山.

56. 中山登志子 (2024). 千葉大学附属病院看護部シニアナースエディケーター養成研修「成人学習理論に基づく看護基礎教育課程の学生への対応」講師. 千葉.

看護政策・管理学

〔原著〕

1. Mitoma M, Tanaka M, Shimpuku Y, Yokota S, Yoshinaga N. Nursing researchers' concern about research activities during COVID-19: A secondary analysis of longitudinal survey data in Japan. *Research in Nursing & Health*. 2024; 47(5): 522-531. (doi.org/10.1002/nur.22403)
2. Kazawa K, Yoshinaga N, Tomotaki A, Yokota S, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Ikeda M, Tanaka M, Sugama J. Changes in Research Activity and Obstructive Factors among Nursing Researchers during the First 2 Years of the COVID-19 Pandemic: A Longitudinal Study. *Journal of International Nursing Research*. 2025;2023-0039. (doi.org/10.53044/jinr.2023-0039)
3. Kawazoe Y, Nagashima S, Yokota S, Ohe K. Development of a Code System for Allergens and its Integration into the HL7 FHIR AllergyIntolerance Resource. *International Journal of Medical Informatics*. 2025; 195: 105739. (published online) (doi.org/10.1016/j.ijmedinf.2024.105739)
4. 横田慎一郎, 河添悦昌, 井田有亮, 森川工, 大江和彦. 国立大学病院遠隔バックアップシステム (the GEMINI Project) のリストアテストの実施結果と課題の分析. *医療情報学*. (in press)
5. Nishi R, Kashiwagi K, Yokota S, Ishii M, Miyo K. Construction and Validation of Artificial Neural Network Model Suggesting Nursing Diagnosis: A Proof-of-Concept Study. *CIN: Computers, Informatics, Nursing*. (in press)
6. 佐々木亜希子, 飯野理恵, 小島朋美, 古庄知己 (2024). 行政保健師による遺伝に関する相談対応の現状と課題－A 件 3 市での質問紙調査から－. *日本遺伝カウンセリング学会誌*, 45(4), 245-256.

〔論文等(査読あり)〕

7. 鈴木悟子, 杉田由加里 (2024). 成果につながる特定保健指導技術に関するナラティブレビュー. *日本地域看護学会誌*, 27(1), 15-22.
8. 杉田由加里, 鈴木悟子, 齋藤良行, 赤松利恵, 田原康玄, 中山健夫 (2024). 特定健康診査の標準的な質問票の活用に関する実態調査. *日本公衆衛生雑誌*, 71(4), 231-239.

〔論文等(査読なし)〕

9. 横田慎一郎. 人工知能の利活用による会議効率化の未来. *看護*. 2025; 77(1): 64-66.

〔単行書〕

10. 横田慎一郎: エッセンシャル看護情報学. 2025 年版, 医歯薬出版株式会社, 115-132, 160-166. (2025 年 1 月)

〔学会発表抄録〕

11. 友滝愛, 森岡典子, 横田慎一郎, 岩本大希. 訪問看護の標準的用語集オマハシステムと在宅医療の質評価指標のマッピング. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2024: 81-84. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会. 東京. 2024 年 8 月.
12. 三谷知広, 長江祐吾, 横田慎一郎, 土井研人, 山本知孝, 高橋航一. 二次元バーコードを介した電子カルテ・輸液ポンプ連携機能の要件. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2024: 121-124. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会. 東京. 2024 年 8 月.
13. 長江祐吾, 横田慎一郎, 三谷知広, 青木光宏, 高橋航一, 中野敦行, 井狩誠二, 川村慎一, 松田

- 美智代, 山本知孝, 土井研人, 大江和彦. バイタル測定結果の記録を支援する文字認識 AI 技術を活用したアプリの検討. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会論文集. 2024: 125-126. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会. 東京. 2024 年 8 月.
14. 武田理宏, 滝沢牧子, 岡田佳築, 北村温美, 橋詰淳哉, 横田慎一郎. 多施設で医薬品や食物の禁忌・アレルギーを共有する未来 - 医療安全に向けて医療情報関係者が果たすべき役割-. 医療情報学. 2024; 44 (Suppl.) 189-191. 第 44 回医療情報学連合大会 (第 25 回日本医療情報学会学術大会). 福岡. 2024 年 11 月.
 15. 下邨雅一, 横田慎一郎, 桜井亮太, 澤智博, 大江和彦. アンケート調査から把握する僻地診療所の電子カルテ利用の現況. 医療情報学. 2024; 44 (Suppl.) 1257-1260. 第 44 回医療情報学連合大会 (第 25 回日本医療情報学会学術大会). 福岡. 2024 年 11 月.
 16. 杉田由加里, 石丸美奈, 飯野理恵, 小宮山日登美, 杉原幸子, 前田由希子 (2024, 6). 地域看護における人材育成や組織マネジメント力を高めることについて語り合おう～現職者による大学院での学びを通して～. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 104, 仙台.
 17. 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子 (2024, 6). 予防活動に対して市町村中堅期保健師に求められる実践技術. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集. 117. 仙台.
 18. 杉田由加里, 田中美延里, 米増直美, 小野志保, 栗原美香, 森絵美 (2024, 6). 自治体のリーダー保健師の組織マネジメントに関する育成研修の効果評価. 日本地域看護学会第 27 回学術集会講演集, 236, 仙台.
 19. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 中山登志子, 眞嶋朋子, 島田陽子 (2024.8). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の職位別効果～研修前後のコンピテンシーの変化より～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 名古屋.
 20. 杉田由加里, 飯田貴映子, 黒田久美子, 池崎澄江, 飯塚貴美, 宇野光子, 佐藤十美 (2024, 8). 看護管理者だからこそ大学院で学んでみませんか? ～現場の課題を解決できるリカレント教育プログラム～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 名古屋市.
 21. 浅川陽子, 杉田由加里 (2024, 8). 病状不安定な独居高齢患者の自宅退院を叶えた多職種連携における退院支援看護師の役割. 第 29 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 168, 鎌倉市.
 22. 松澤愛依子, 飯野理恵 (2024, 9). 地域における世代間交流の活動内容に関する文献検討. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集. 45. 東京新宿区.
 23. 齊藤千鶴, 杉田由加里 (2024, 9). 運動介入に参加していない地域在住高齢者の運動継続条件に関する文献レビュー. 千葉看護学会第 30 回学術集会講演集, 45, 東京都新宿区.
 24. 菊地貴恵, 杉田由加里 (2024, 10). 精神科訪問看護師の困難さへの対処を支援する看護管理者の実践. 第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会抄録集, 142, 和光市.
 25. 辻野拓也, 酒井郁子, 野崎章子, 飯田貴映子, 飯野理恵, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき (2024, 11). グローバル IPE プログラムによる多職種連携能力向上効果検証: 千葉大学とシンビオシス国際大学学生の比較. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 81, 埼玉県越谷市.
 26. 山内かづ代, 野崎章子, 辻野拓也, 飯田貴映子, 飯野理恵, 鋪野紀好, 荒木信之, 伊藤彰一, 酒井郁子 (2024, 11). 非都市部におけるグローバル IPE の可能性: 海外学生受け入れが地域組織と住民にもたらす多面的効果. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 85, 埼玉県越谷市.
 27. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 齊藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2024, 12). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果～ピア・コンサルテーション変化より～. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本.
 28. 杉田由加里, 田中美延里, 米増直美, 森絵美, 小方恵子, 越智奏枝 (2025, 3). 自治体のミドルマネジャー保健師の組織マネジメントに係る研修にピア・ラーニングを取り入れた効果. 文化看護学会第 17 回学術集会抄録集, 58, 千葉市.
 29. Ogawa, Y., Wazumi, Y. (2024, July 25-28). *The Potential of Using ChatGPT in Discovering and Promoting Psychiatric Patients' Strengths*. 35th International Nursing Research Congress,

Singapore. (査読あり・国際学会(海外))

30. 和住淑子, (2024, 10). 『病院監督から貴婦人委員会への季刊報告』に見る‘三方よし’の看護管理. ナイチンゲール研究学会第 44 回研究懇談会, 東京. (査読なし・国内学会)
31. 中山章子, 和住淑子, 高木夏恵, 鈴木美智子, 稲城陽子, 長井優子, (2024, 12). 患者の力を前提とした看護の自律的判断に基づき医療安全策を考えられるスタッフ育成の取組みの検討. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本. (査読あり・国内学会)
32. Nagasaku, E. (2025.2.13-14). *Characteristics of the Organizational Culture in Japanese Nursing Practices and a Comparison with Overseas ~Focusing on Anxieties that Threaten Psychological Safety~*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
33. Tanaka, S., Wazumi, Y. (2025.2.13-14). *Literature review of approval action of head nurses toward mid-career nurses in Japan*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))
34. Fujiura, A., Wazumi, Y. (2025.2.13-14). *The relationship between how nurse managers perceive their experiences, including failures, and the development of nursing management skills*. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. (査読あり・国際学会(海外))

〔シンポジウム・招聘講演〕

35. 杉田由加里 (2024, 6). 特定健診における脂質異常症の保健指導と受診勧奨 特定健康診査後の特定保健指導以外の保健事業の現状. 日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集 56 回, 156, 神戸市.
36. 横田慎一郎 (2024, 8). 本邦データヘルス政策の潮流と看護分野での電子カルテデータ利活用. 第 28 回日本看護管理学会学術集会 シンポジウム RWD (リアルワールドデータ) で看護を描き出す シンポジスト
37. 横田慎一郎 (2024, 9). 医療情報システムの安全管理. 第 22 回日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会 ビッグデータ等の管理におけるリスクマネジメント シンポジスト
38. 横田慎一郎 (2024, 11). 食物・その他物質の禁忌・アレルギー情報共有に向けた実データ分析に基づく報告. 第 44 回日本医療情報学会連合大会 (第 25 回日本医療情報学会学術大会) 共同企画 多施設で医薬品や食物の禁忌・アレルギーを共有する未来ー医療安全に向けて医療情報関係者が果たすべき役割ー (医療の質・安全学会).
39. 横田慎一郎 (2024, 11). 看護と電子カルテと医療 DX. SFC Open Research Forum. 看護・ケアにおけるデータサイエンスとテクノロジーの利活用.
40. 横田慎一郎 (2024, 11). 食物アレルギーや不耐症情報を J-FAGY で表現したらどうなるか. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会 シンポジウム どうなる? 医療 DXー医薬品や食品のアレルギー情報を共有する未来ー.
41. 横田慎一郎 (2024, 12). 日本の医療 DX と展望, そして看護 DX の未来. 一般社団法人看護系学会等社会保険連合 第 20 回情報交換会.
42. 横田慎一郎 (2025, 3 予定). 看護分野での AI 活用最前線. 日本薬理学会 看護薬理学カンファレンス 2025 in 幕張.

〔特許〕

43. 大江和彦, 横田慎一郎, 土井俊祐, 長江祐吾, 馬場利明, 青木光宏, 高橋航一, 医療情報管理システム, 医療情報管理プログラムおよび医療情報管理方法, 特許第 7602214 号 (特願 2021-71744, 特開 2022-166495), 登録日 2024 年 12 月 10 日

〔その他〕

44. 横田慎一郎: 標準規格と人工知能で挑む医療安全分野のデジタルトランスフォーメーション. 第 25 回日本医療情報学会看護学術大会 スポンサーセミナー. (2024, 8)
45. 飯野理恵: 令和 6 年度千葉県新任保健師研修会. 保健師活動の基本.

46. 飯野理恵: 千葉県山武健康福祉センター保健活動業務研究サポート, 令和 6 年度千葉県保健活動業務研究集録, 2025.
47. 飯野理恵: 千葉県印旛健康福祉センター保健活動業務研究サポート, 第 63 回千葉県公衆衛生学会演題抄録集, 2025.
48. 杉田由加里: 令和 6 年度千葉県特定健診・特定保健指導リーダー専門職研修. 特定保健指導事業の運営ー保健指導の質向上に向けた保健事業を目指してー.
49. 杉田由加里: 令和 6 年度千葉県保健師管理者能力育成研修. 保健師管理者に必要な機能と能力.
50. 杉田由加里: 令和 6 年度愛媛県リーダー期保健師育成研修会. 愛媛県リーダー保健師育成研修会【フォロー】.
51. 杉田由加里: 千葉市保健活動業務研究サポート, 令和 6 年度千葉県保健活動業務研究集録, 2025.
52. 杉田由加里: 千葉県君津健康福祉センター保健活動業務研究サポート, 令和 6 年度千葉県保健活動業務研究集録, 2025.

看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

〔原著〕

1. Masatoshi, Saiki., Yoko, Fujisawa., Naoko, Sakai., Nobuko, Tsukahara., Yuriko, Okamoto., Motohiro, Sano., Junko, Kusunoki., Mariko, Masujima., Ikuko, Sakai., Tomoko, Majima (2024). Nurses' Perceptions of Support in Cancer Pharmacotherapy at a University Hospital: A Descriptive Quantitative Study. SAGE open nursing, 2024, DOI 10.1177/23779608241288718

〔論文等(査読あり)〕

2. Mizue, Suzuki., Takuya, Kanamori., Tomoyoshi, Naito., Keigo, Inagaki., Hiromi, Yoshimura., Soichiro, Mimuro., Ikuko, Sakai., Keisuke, Sawaki., Kimiyo, Matsushita., Nanayo, Sasaki (2024.4.25). 急性期病院の看護師に対する認知症看護実践能力育成プログラムの多施設ランダム化比較研究: パーソン・センタード・ケアと認知症の種類別プログラムの比較. 日本老年医学会雑誌. Japanese Journal of Geriatrics 61(2) 204-217 DOI <https://doi.org/10.3143/geriatrics.61.204>
3. Yumiko, Iwasaki., Hiroki, Fukahori., Akemi, Okumura-Hiroshige., Ikuko, Sakai., Shuichi, Inoue., Tomoko, Sugiyama., Katsumi, Nasu., Hirofumi, Ogawara (2024, June 20). Family Caregivers' Needs in Long-Term Care Facilities: A Descriptive Qualitative Study. Research in gerontological nursing 17(4) 1-11.
4. 出穂麻智子, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 (2024, 7. 31). 特定行為研修を修了した手術室看護師による肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期看護. 老年看護学, 29(1), 112-120.
5. Yusako, Morishita., Yuya, Oura., Hiroshi, Oyama., Izumi, Usui., Yukihiro, Nomura., Toshiya, Nakaguchi: Pupil Dilation as an Indicator of Cognitive Load During Multi-tasking in a Virtual Environment. The Japanese Journal for Medical Virtual Reality. No.21(1), p1~p11. 2024.9.
6. Ai, Tomotaki., Ikuko, Sakai., Hiroki, Fukahori., Yasunobu, Tsuda (2024). Evaluation of an evidence-based practice education workshop focused on critical appraisal for advanced practice nurses: A before-after intervention study. 24.(1351) (2024) *BMC Medical Education*. DOI <https://doi.org/10.1186/s12909-024-06315-z>. (Published: 23 November 2024)
7. Ai, Tomotaki., Masatoshi, Saiki., Hiroki, Fukahori., Takeshi, Yamamoto., Masakazu, Nishigaki., Chiyo, Matsuoka., Emi, Yasuda., Ikuko, Sakai (2025). Psychometric properties of the Japanese version of the evidence-based practice beliefs scale among clinical nurses. *Journal of International Nursing Research*. DOI 10.53044/jinr.2023-0042.
8. Motohiro, Sano., Masatoshi, Saiki., Mariko, Masujima., Yoko, Fujisawa., Naoko, Sakai., Nobuko, Tsukahara., Yuriko, Okamoto., Junko, Kusunoki., Ikuko, Sakai., Tomoko, Majima (2025). Practice for cancer pharmacotherapy among nurses, physicians, and pharmacists in Japan: A descriptive cross-sectional study, Journal of International Journal of Nursing

〔論文等(査読なし)〕

9. 酒井郁子 (2024). 特集 多職種連携の土台を築く＜論考 1＞多職種連携の理念. コミュニティケア, 26(9), 6-12.
10. 酒井郁子 (2024). 特集 EBP から実践へ 1 モデルを深める 看護実践における EBP 実装モデルへの期待, 看護研究, 57(2), 90-92.
11. 酒井郁子, 長谷川直, 窪田容子, 瀬尾智美, 西垣昌和, 友滝愛 (2024). より良いケアをめざすための EBP 実装 千葉大学医学部附属病院包括的せん妄ケアチームの活動から. 看護研究, 57(3), 230-243.
12. 酒井郁子 (2024). 「卓越したジェネラリスト診療」入門-複雑困難な時代を生き抜く臨床医のメソッド. 総合診療, 34(9), 1033. <https://doi.org/10.11477/mf.1429204983>
13. 佐伯昌俊, 今井陽子, 西宮岳, 酒井郁子 (2024). 特定行為誕生の歴史と今、これから. 特定行為看護, 1(1), 10-15, 2024.
14. 下井俊典 (2025). 国内外における多職種連携教育の動向. 理学療法, 42(3).

〔報告書〕

15. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗, 富永嘉子, 高野佳奈, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 6 年度事業報告書, 2024. (印刷予定)

〔単行書〕

16. 酒井郁子: 高齢者総合機能評価 (CGA) ガイドラインの作成研究班, 日本老年医学会, 国立長寿医療研究センター: 高齢者総合機能評価 (CGA) に基づく診療・ケアガイドライン 2024. 南江堂, 2024. 6. 15. 電子書籍版
17. 酒井郁子: 2040 年に期待するプライマリ・ケア (3) 看護の立場から. あなたも名医! プライマリ・ケアの理論と実践〈完全版〉95. 182-183. 日本プライマリ・ケア連合学会. 日本医事新報社.
18. 酒井郁子: 日本医事新報 5254 号 新春特集「炉辺閑話 2025」
19. 酒井郁子: 3 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 8 高齢者看護における多職種連携. 193-196. ナーシング・グラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害. 株式会社メディカ出版.
20. 酒井郁子: 4 高齢者看護の基本 6 高齢者のリスクマネジメント. 266-270. ナーシング・グラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害. 株式会社メディカ出版. (2025.1.20)
21. 酒井郁子: 7 精神・神経機能障害と看護 せん妄. 163-167. ナーシング・グラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践. 株式会社メディカ出版.

〔学会発表抄録〕

22. 孫佳茹 (2024). 2000 年以降ボーイスカウト研究のトレンドの可視化へのチャレンジ-AI ソフトによるテキスト解析の結果. ボーイスカウト日本連盟全国大会 2024 (令和 6) 年度 全国大会. (査読なし, 国内集会)
23. 齋藤恭子, 屋久裕介, 味木由布美, 酒井郁子 (2024, 8. 23-24). EBP に基づいた点滴作成時の適切な照合方法への取り組み—ベッドサイドでの時間の拡充と看護ケアの充実を目指して—. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. (査読あり・国内学会)
24. 屋久裕介, 齋藤恭子, 味木由布美, 酒井郁子 (2024, 8. 23-24). EBP (Evidence-Based Practice) の実装に取り組むスタッフの支援—臨床・研究・教育との協働を通じて、スタッフとともに学ぶ—. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. (査読あり・国内学会)
25. 森下裕咲子, 齊藤しのぶ, 臼井いづみ, 小山博史, 野村行弘, 中口俊哉: 即時フィードバックを有した傷の手当てシミュレータの開発. 第 23 回日本 VR 医学会.
26. 葉山奈美, 笠井大, 井出成美, 孫佳茹, 下井俊典, 臼井いづみ, 鈴木紀行, 石川雅之, 関根祐子, 平

- 田 慎之介, 鈴木拓児, 中口俊哉, 石井伊都子, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2024). JSME56 特別企画 5 専門職連携教育における初回グループワークで生じる医療系学生の沈黙の要因の検討. 医学教育. 第 56 回日本医学教育学会大会予稿集. 55 (suppl), 49. 2024.
27. 下井俊典, 井出成美, 孫佳茹, 齊藤可紗, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2024). 亥鼻 IPE: クリニカル IPE の学習効果および学生の行動内容. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 62. (査読あり・国内学会)
28. 辻野拓也, 酒井郁子, 野崎章子, 飯田貴映子, 飯野理恵, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき (2024) グローバル IPE プログラムによる多職種連携能力向上効果検証: 千葉大学とシンビオシス国際大学学生の比較, 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 81. (査読あり・国内学会)
29. 山内かづ代, 野崎章子, 辻野拓也, 飯田貴映子, 飯野理恵, 鋪野紀好, 荒木信之, 伊藤彰一, 酒井郁子 (2024). 非都市部におけるグローバル IPE の可能性: 海外学生受け入れが地域組織と住民にもたらす多面的効果. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 85. (査読あり・国内学会)
30. 下井俊典 (2024). 理学療法新入生が有する学習観と学習動機の関係. 第 13 回日本理学療法教育学会学術大会.

〔シンポジウム・招聘講演〕

31. 酒井郁子 (2024). 第一部講演会 基調講演 これからの IPE (専門職連携教育)・IPCP (専門職連携協働実践). 第 3 回カマチグループ “看護を考える”講演会 2024ー未来の看護師を考えるープログラム集, 2-16 (査読あり・国内学会)
32. 酒井郁子 (2024). 特別講演 地域包括ケアにおける専門職連携実践の実際と効果. 第 24 回日本運動器看護学会学術集会 プログラム・抄録集, 16. (査読あり・国内学会)
33. 酒井郁子 (2024). 教育講演 2 多職種連携でつなぐーつながる多職種連携教育の未来. 日本看護学教育学会第 34 回学術集会抄録集, 62. (査読あり・国内学会) オンデマンド
34. 酒井郁子 (2024). シンポジウム 3「患者中心の医療を実現するチーム医療と教育」日本における専門職連携教育のいままでとこれから. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会抄録集, 141. (査読あり・国内学会) (オンデマンド)
35. 黒田久美子, 佐藤禮子, 中村伸江, 酒井郁子, 石橋みゆき, 増島麻里子 (2024). 理事会企画 今後の学会活動の探求ー30 年の学会の歩みをふまえて. 第 30 回千葉看護学会学術集会抄録集, 5. (査読あり・国内学会)
36. 井出成美 (2024). シンポジウム I 専門職連携教育 (IPE) の地域社会への展開ーIPE から IPW へ 2) 諸機関と共に創る IPE の地域展開. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 17. (査読あり・国内学会)
37. 酒井郁子 (2024). シンポジウム II 災害時の生活支援と専門職連携 3) 大学院教育における災害時専門職連携演習 (災害 IP 演習). 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 22. (査読あり・国内学会)
38. 下井俊典 (2024). パネルディスカッション「リハビリテーション専門職の臨床生理学的視座」抹消神経の神経難病患者に対する表面筋電図を活用した筋疲労特性に関する研究. 日本臨床生理学会雑誌第 61 回総会抄録号, 54(4), 90.
39. 下井俊典 (2025). シンポジウム ー多職種連携教育の深化に向けた実践報告ー. 全国大学理学療法教育学会.
40. 孫佳茹 (2025). スカウティング研究フォーラム「スカウトライブラリーの価値を探るーその根拠となる 1 冊を探してー」

〔その他〕

41. 酒井郁子, 朝比奈真由美, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 令和 6 年度新入職員研修 多職種参加型研修専門職連携 (IPW).
42. 下井俊典 (2024). 岐阜大学大学院医学系研究科 医療者教育学専攻修士課程 「医療における多

職種協働と地域連携」

43. 酒井郁子 (2024). 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 質管理 I
44. 下井俊典 (2024). 福祉用具プランナー管理指導者養成研修(起居移乗コース) 講師 公益財団法人テクノエイド協会.
45. 酒井郁子 (2024). 看護を考える講演会「これからの IPE (専門職連携教育)・IPCP (専門職連携協働実践)」 令和健康科学大学.
46. 下井俊典 (2024). 日本理学療法士臨床認定カリキュラム審査部会 部会員.
47. 酒井郁子 (2024). 医療安全と不眠症診療セミナー 医療安全対策の推進について 講師.
48. 酒井郁子 (2024). 特別講演「地域包括ケアにおける専門職連携実践の実際と効果」. 第 24 回日本運動器看護学会学術集会, 北里大学白金キャンパス.
49. 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 自治労都区・政令市共闘会議民生部会, 記念講演「職場のコミュニケーションスキル」
50. 酒井郁子 (2024). 専門職連携教育の実際と今後 講師 京都大学大学院医学研究科.
51. 酒井郁子 (2024). 不眠症治療薬の適正使用を考える会 「身体拘束縮小と不眠症治療薬の適正使用～当院での取り組みの実際と効果～. セミナー演者.
52. 酒井郁子 (2024). 北里大学大学院看護学研究科 老年看護学Ⅳ 非常勤講師.
53. 酒井郁子 (2024). 講演 エビデンスに基づいた身体拘束縮小の取り組み 医療安全委員会・看護介護委員会 合同研修会, 回復期リハビリテーション病棟協会.
54. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 特定行為研修「チーム医療演習」千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター.
55. 酒井郁子 (2024). 教育研修会 IPE (専門職連携教育) について 講師. 徳島県立総合看護学校.
56. 酒井郁子 (2024). 城北医療安全性セミナー「身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果、不眠症治療薬の適正使用」
57. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 高齢者ケア施設で働く看護管理者研修 講師および演習支援. 宮城県看護協会. (現地開催)
58. 孫佳茹 (2024). 群馬大学大学院 第 11 回群馬大学 IPE トレーニング 2024 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース 群馬大学.
59. 酒井郁子 (2024). 特別講演会 看護の専門性と専門職連携. 神戸市看護大学.
60. 酒井郁子 (2024). 令和 6 年度研修会 高齢者の尊厳を守り日常生活を支える看護 千葉県看護協会. WEB 開催
61. 酒井郁子 (2024). 千葉県看護協会 第 23 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル「統合演習Ⅱ」
62. 酒井郁子 (2024). 全国インターネットライブセミナー 不眠症診療 WEB セミナー.
63. 酒井郁子 (2024). 第 3 回奈良医大特定行為フォーラム 講演 特定行為研修修了者による活動を推進するための組織的支援. 橿原市コンベンションルーム奈良県.
64. 酒井郁子 (2024). 令和 6 年度 第 1 回船橋地区部会研修会 身体拘束最小化に向けた組織的活動戦略. 千葉県看護協会.
65. 酒井郁子 (2024). 不眠症診療 WEB セミナー 講師.
66. 下井俊典 (2024). 2024 年度 全国リハビリテーション学校協会 教員研修会「学習者中心の授業をつくってみようーインストラクショナル・デザインに基づいた教育設計」
67. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 第 23 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 研修 ヘルスケアシステム論Ⅱ 講師. 千葉県看護協会.
68. 酒井郁子 (2024). 回復期リハビリテーション病棟協会 2024 年度回復期リハビリテーション看護師認定コース 第 17 期 講師「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」(オンライン)
69. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). 進路探求型研究プログラム. 講師. 栃木県立小山高等学校.
70. 酒井郁子 (2024). 医療安全と不眠症診療セミナー.
71. 酒井郁子 (2024). 第 19 回千葉市連携室連絡会講師 千葉市内病院の地域連携室スタッフに向け

- て多職種連携の課題解決についてレクチャーする。千葉市（在宅医療・介護連携支援センター）
72. 酒井郁子 (2024). 不眠症・医療安全セミナー. 身体拘束縮小に向けた取り組みと実際～不眠症治療薬の適正使用を含めて～. (オンライン)
 73. 酒井郁子 (2024). 生活と看取りを在宅で支える看護の将来像－高度実践看護師教育の現状と課題－. 広島大学 附属先駆的看護実践支援センター FD 研修・訪問看護師養成研修.
 74. 酒井郁子 (2024). 名古屋市立大学病院群合同セミナー. Dementia care Support Team seminar 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～. 講師.
 75. 酒井郁子 (2024). 千葉県看護協会 看護師の特定行為研修制度と研修修了者の実践 講師. (オンライン)
 76. 下井俊典 (2024). 他職種連携に必要な人材育成. 講師. 独立行政法人国立病院機構本部.
 77. 酒井郁子 (2024). 医療安全講演会 身体拘束最小化と事故防止. 国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院.
 78. 酒井郁子 (2024). 医療安全セミナー. 身体拘束縮小に向けた取り組みと実際～不眠症治療薬の適正使用を含めて～. (オンライン)
 79. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗 (2024). 第 20 回千葉市連携室連絡会講師 千葉市内病院の地域連携室スタッフに向けて 多職種連携の課題解決－対立の解決のストラテジー. 千葉市（在宅医療・介護連携支援センター）
 80. 酒井郁子 (2024). 医療安全と不眠症診療セミナー. 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～.
 81. 下井俊典 (2024). 2024 年度 全国リハビリテーション学校協会 教員研修会 「インストラクショナル・デザインって何だ」 全国リハビリテーション学校協会. オンデマンド配信
 82. 酒井郁子 (2024). 船橋北医療安全セミナー 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～.
 83. 酒井郁子 (2024). 看護師のための認知症 WEB セミナー. 座長.
 84. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗 (2024). 令和 6 年度国立障害者リハビリテーション病院看護研修会 高齢者への尊厳あるケアを考える. 国立障害者リハビリテーション病院.
 85. 酒井郁子 (2024). 日本看護系大学協議会. APN グランドデザイン委員.
 86. 酒井郁子 (2024). 日本看護系大学協議会. 令和 6 年度看護学教育モデルコアカリキュラム改訂に向けた調査研究 特別ワーキンググループ.
 87. 下井俊典 (2024). 第 18 回全国大学理学療法学会における講師 シンポジスト 2 「多職種連携教育の深化に向けた実践報告」
 88. 井出成美 (2024). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 対立の解決のためのストラテジー.
 89. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解. (オンライン)
 90. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン)
 91. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル. (オンライン)
 92. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス. (オンライン)
 93. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, (2024). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン)
 94. 酒井郁子 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.
 95. 下井俊典 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作.
 96. 孫佳茹 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション.

97. 齊藤可紗 (2024). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク私の仕事紹介. (オンライン).
98. 酒井郁子 (2024). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
99. 酒井郁子 (2024). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. チームについて.
100. 酒井郁子 (2024). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員等（※は大学院生）が研究代表者となっているものに限りです。
研究種目・代表者氏名による五十音順です。

1) 文科科研・厚労科研

【新規】

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
池崎 澄江	文科科研 基盤研究 (B)	高齢患者の入退院支援と在宅継続に寄与する個別最適な 看護サマリーの構造化
酒井 郁子	文科科研 基盤研究 (B)	尊厳あるケアのための多層的リーダーシップ発揮による 身体拘束縮小戦略の理論化と普及
下井 俊典	文科科研 基盤研究 (C)	専門職連携教育が有する学習者のエージェンシーに対す る教育効果の多機関共同研究
齊藤 可紗	文科科研 基盤研究 (C)	アイトラッカーを用いた看護学生の看護技術修得に向け た教育プログラム開発
黒田久美子	文科科研 基盤研究 (C)	インスリン治療中の高齢糖尿病患者にとっての認知症レ ディネスと必要な支援技術
田崎 牧子	文科科研 基盤研究 (C)	Onco-Cardiology に着眼した高齢がん患者のためのサバ イバーシップケアプランの考案
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究 (C)	災害エスノグラフィーの活用による文化多様性を重視し た災害看護教育プログラムの開発
岩瀬 靖子	文科科研 基盤研究 (C)	災害時の倫理的公衆衛生実践能力育成を目的とした他職 種協働型教育プログラムの開発
坂井 文乃	文科科研 基盤研究 (C)	乳児の親の育児におけるヘルスリテラシー獲得の促進に よる育児支援モデル開発
佐藤 太一	文科科研 若手研究	保健師による脆弱な個人や家族へのケアリングを促す OJT プログラム開発と有効性の検証
姚 利	文科科研 若手研究	在留中国人高齢者の老いへの準備教育アプリケーション の開発
依田 智未	文科科研 研究活動スタート支援	集中治療室にて意思疎通困難な経験を持つ患者と家族に よるケア指針の実現可能性の検証

【継続】 期間延長による継続を含みます。

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
正木 治恵	文科科研 基盤研究 (A)	リアルタイム生活情報の AI 解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立
森 恵美	文科科研 基盤研究 (A)	妊娠期から産後 1 か月にわたる初産婦夫婦へのオンライン子育て支援方法の開発と検証
石丸 美奈	文科科研 基盤研究 (B)	認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証
眞嶋 朋子	文科科研 基盤研究 (B)	心不全患者の退院後の心理的安寧を支える看護支援方法の開発
中山登志子	文科科研 基盤研究 (B)	研究指導能力向上に向けた看護系大学院修士・博士課程教育連動型 FD モデルの開発
増島麻里子	文科科研 基盤研究 (B)	With コロナ時代の ICT ツールによる高齢者主体型の終生期対話プログラムの構築
宮崎美砂子	文科科研 基盤研究 (B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践技術の普及・定着に向けた実用化促進研究
斉藤しのぶ	文科科研 基盤研究 (B)	看護のリアリティとバーチャル融合型シミュレーションプラットフォームの構築
田上美千佳	文科科研 基盤研究 (B)	精神科外来の可能性を探索するパンデミック下をふまえた包括的看護支援方法の開発
永田亜希子	文科科研 基盤研究 (C)	領域横断型・積み上げ式・ディープ・アクティブラーニング地域包括ケア教材開発
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究 (C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発
富岡 晶子	文科科研 基盤研究 (C)	思春期・若年成人がん経験者の性の問題への支援に関する教育プログラムの開発
木村佳代子	文科科研 基盤研究 (C)	後期早産児とその母親の母子相互作用を促進する看護介入の開発
楠 潤子	文科科研 基盤研究 (C)	がん患者への効果的な補完・代替療法利用支援に向けた看護継続教育プログラムの開発
佐々木ちひろ	文科科研 基盤研究 (C)	急性期病院のプライマリナースによる退院支援に内在する臨床知識
遠山 房絵	文科科研 基盤研究 (C)	第 2 子誕生を迎える第 1 子のレディネスを高める夫婦協働型子育て支援プログラムの開発
岩瀬 靖子	文科科研 基盤研究 (C)	災害時の公衆衛生看護実践における倫理的意思決定能力育成の教育手法モデルの検証
飛世真理子	文科科研 基盤研究 (C)	看護基礎教育における感染予防技術の教育プログラム開発と学習効果の検証
前原 邦江	文科科研 基盤研究 (C)	不妊治療後の夫婦の親役割への適応を促すオンライン産褥期看護介入プログラムの開発
野崎 章子	文科科研 基盤研究 (C)	包摂的パンデミック・レジリエンス構築を志向する精神障害者の地域生活継続支援法開発
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究 (C)	Impact of listening video logs for extensive viewing on the English spoken fluency of undergraduate Japanese nursing students

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
植田満美子	文科科研 基盤研究 (C)	「潜在看護師の復職準備状況自己評価尺度」の開発とその有効性の検証
雨宮 歩	文科科研 基盤研究 (C)	カテーテル自己抜去予測アルゴリズムとケア方法の開発
木村佳代子	文科科研 基盤研究 (C)	助産ケア DX による包括的シミュレーション教育の開発
飯田貴映子	文科科研 基盤研究 (C)	アジア諸国の高齢者長期ケア施設における緩和ケア開発：マッピング調査
大内 基司	文科科研 基盤研究 (C)	消化器官における糖代謝の調節因子としてみた 1,5-AG 機能の解明：加齢随伴性を念頭に
石田ゆかり＊	文科科研 基盤研究 (C)	年齢調整医療費を用いた医療費分析アプリケーションの構築と検証
諏訪さゆり	文科科研 挑戦的研究（開拓）	近未来の介護ロボットの開発と社会実装のための Ethical Platform 構築
増島麻里子	文科科研 挑戦的研究（萌芽）	死生観涵養に向けてよりよく生きることを考えるシティズンサイエンスの創発
正木 治恵	文科科研 挑戦的研究（萌芽）	医療機関で活用する多文化対応ケアコミュニケーションツールの開発
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発展を促す支援指針の開発
鈴木 美央	文科科研 若手研究	セルフモニタリングに基づいたクライシスプランの作成・実施の有用性の検討
佐野 元洋	文科科研 若手研究	ICT を活用したシームレスな心不全管理と地域連携強化に関する研究
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症者と家族の困難を改善する包括的訪問看護モデルの開発
小川 俊子	文科科研 若手研究	食品添加物を利用した栄養カテーテルの衛生的管理方法の検討
佐伯 昌俊	文科科研 若手研究	医療施設の職種間協働に着目したタスクシフト/シェアモデルの構築
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患をもつ幼児の主体的な発達を支える包括的援助指針の開発
田原裕希恵	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の運動機能の変化と関連因子の解明
飯田貴映子	文科科研 研究活動スタート支援	当事者・市民の視点を反映した高齢者施設における緩和ケア教育プログラムの開発
犬山 彩乃	文科科研 研究活動スタート支援	認知症高齢者が読みやすく理解しやすい文書構造の解明
山崎由利亜	文科科研 特別研究員奨励費	日本の高齢者向け住まいで活用できる認知症フレンドリーな環境評価ツールの開発

2) その他研究助成金

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
佐伯 昌俊	公益財団法人日本看護科学学会 若手研究者助成金	高度実践看護師に対する役割期待と臨床への役割実装（R6.9.1-R7.3.31）
姚 利*	日中笹川医学奨学金（研究費）	在留中国人高齢者の老いへの準備教育アプリケーションの開発について（R6.4.1-R7.3.31）
松山 直美*	公益財団法人 安田記念医学財団	治療抵抗性のがん患者の生き方の志向を共有する対話型看護実践モデルの開発（R7.1.1-R7.12.31）
松村 彩*	勇美記念財団「在宅医療推進のための研究」論文枠	認知症を介護する家族介護者の mHealth（モバイルヘルス）デバイスによる介護負担計測（R6.3.15-R8.3.31）
可児 幸恵*	山路ふみ子専門看護教育研究助成基金 第 34 階（2024 年度）研究助成	尿道下裂のある小児への成人後を見すえた QOL 向上を目指した看護支援の開発（R6.4.1-R8.3.31）
雨宮 歩	受託研究(JST 創発的研究支援事業)	在宅介護を支えるポイントオブケア AI（R5.4.1-R8.3.31）
岡本 聡美*	公益財団法人 SOMPO 福祉財団 2024 年度ジェロントロジー研究助成	認知症高齢者の自律・自立を支援するための環境づくり看護実践ガイドの有用性の検証（R6.12-R8.3）
大倉 瑞代*	日本糖尿病協会 2023 年度メディカルスタッフ育成研究助成	持続血糖モニタリングを使いセルフケア能力向上を目指す糖尿病患者教育プログラム開発（R6.3-R7.3）

3. 共同研究

1) 国際共同研究

【健康増進看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：

可視・近赤外動画画像解析に基づく 4D 血流動態の機序解明とその医看祉祉工学応用

①本研究における研究代表者および研究メンバー：講師／雨宮歩

②海外におけるパートナー：

メキシコ／Instituto Nacional de Astrofísica, Óptica y Electrónica (INAOE)/ Francisco-J Renero

③実施期間：2022 年～

④プロジェクトの概要：画像による生体計測方法を検討し、看護ケアへの応用を目指している。

⑤資金・助成等：科研費

⑥主な成果：原著論文

【地域創成看護学講座】

(2) 研究プロジェクト名：在宅介護ロボットの開発と社会実装における倫理的課題

①本研究における研究代表者および研究メンバー：

教授／諏訪さゆり、教授／石丸美奈、教授／兪文偉、准教授／高橋絵里香

②海外におけるパートナー：

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly、フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen

③実施期間：2018 年以降

④プロジェクトの概要：

在宅介護ロボットの開発と社会実装に高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職の倫理的認識がいかに影響するのかについてモデル開発に取り組んでいる。

⑤資金・助成等：

ファイザーヘルス振興財団国際共同研究助成金、千葉大学国際高等研究基幹研究支援プログラム

⑥主な成果：

国際ジャーナルでの原著論文公表

2) 民間共同研究

【健康増進看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：

限られた人材で非拘束ケアを実現する脱衣行動の早期検知システムの開発

①本研究における研究代表者および研究メンバー：講師／雨宮歩

②パートナー（企業名）：株式会社アイ・メデックス

③実施期間：2024 年 6 月～2025 年 5 月

④プロジェクトの概要：

認知症の方などの脱衣行為や弄便行為を看護師や介護職に知らせるシステムを構築する。

⑤資金・助成等：千葉市産業振興財団 産学共同研究促進事業助成金

⑥主な成果：特許出願、学術集会における発表

(2) 研究プロジェクト名：在宅介護を支えるポイントオブケア AI

①本研究における研究代表者および研究メンバー：講師／雨宮歩

②パートナー（企業名）：国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

③実施期間：2023 年 4 月～2030 年 3 月

④プロジェクトの概要：

在宅において無理なく計測可能なライフログデータを用い、認知機能低下や介護負担の早期発見と適切なフィードバックが可能なポイントオブケア AI を開発する。

⑤資金・助成等：創発的研究支援事業

⑥主な成果：学術集会における発表

(3) 研究プロジェクト名：電子回路の小型化技術の看護・介護現場への応用

①本研究における研究代表者および研究メンバー：講師／雨宮歩

②パートナー（企業名）：産業技術総合研究所（AIST）

③実施期間：2024 年 8 月～2027 年 3 月

④プロジェクトの概要：

センサ技術を応用し、看護・介護現場に関連したインシデント防止のためのセンサシステムを開発する。

⑤資金・助成等：科研費

⑥主な成果：特許出願準備中

【地域創成看護学講座】

(4) 研究プロジェクト名：

全世代型地域包括ケアシステムにおける企業主導型地域モデルの開発

①本研究院における研究代表者（教授／石丸美奈）および研究メンバー（特任助教／佐藤太一、講師／岩瀬靖子、助教／坂井文乃）

②パートナー（企業名）：千葉薬品

③実施期間：令和 6 年 5 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

④プロジェクトの概要：

本研究の目的は、民間企業の機動力を有効に活用した全世代型地域包括ケアシステムの社会実装を目指して、千葉地域モデルを開発することである。各地域の客観的課題や強みの把握、主観的課題や専門職が感じている地域の強みの把握、全世代型地域包括支援センター様機能の必要性のあぶり出しを行い、モデル開発を行って翌年度の検証につなげる。

⑤資金・助成等：約 1.7 万円

⑥主な成果：

パートナーが提携している自治体の客観的課題と専門職が感じている主観的課題の調査を行った。

⑦その他特記すべき事項（受賞、開催シンポジウム等）：なし

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教、助手）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2024 年度	102	2	152	256

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、助手、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			
	審議会委員	科研費審査委員	その他	計
2024 年度	11 件 (★)	8	10	29

★ (50音順)

- ・ 医道審議会
- ・ 科学技術振興機構 (JST) 創発的研究支援事業
- ・ 経済産業省 リスキリングを通じたキャリアアップ支援事業費補助金審査委員
- ・ 厚生労働科学研究費 長寿科学政策研究事業・認知症政策研究事業 事前評価委員
- ・ 厚生労働省
- ・ 厚生労働省 医道審議会専門委員会
- ・ 厚生労働省 保健師助産師看護師試験委員会
- ・ 厚生労働省令和6年度長寿科学政策研究事業・認知症政策研究事業評価委員
- ・ 大学改革支援・学位授与機構
- ・ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・ 文部科学省 職業実践力育成プログラム (BP) 審査委員

2) 地方公共団体等の機関等

(延べ数)

	件 数				
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事、評議員)	その他	計
2024 年度	11 件 (★)	0	6	11	28

★ (50音順)

- ・世田谷区障害者施策推進員協議会
- ・世田谷区障害者推進協議会アドバイザー会議
- ・世田谷区立障害者施設指定管理者制度に係る在り方検討委員会
- ・千葉県医療審議会
- ・千葉県感染症審議会
- ・千葉県循環器病対策推進協議会
- ・千葉市精神保健福祉審議会委員
- ・東京都精神医療審査会
- ・習志野市健康なまちづくり審議会
- ・令和6年度千葉県地方精神保健福祉審議会
- ・令和6年度千葉市新基本計画審議会

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数					
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	その他	計
2024 年度	1	1	0	0	2	4

4. 公開講座

日 程：2024年11月3日（日） 13:00～15:00

場 所：千葉大学亥鼻キャンパス 看護学部 講義・実習室

テーマ：「多職種で教えます！～多世代で考えるフレイル予防～」

高齢社会において、日々の健康作りとフレイル予防をキーワードとし、年を重ねても元気で自分らしく生活できるようにレクチャーとエクササイズを企画し、広く地域住民等に伝える機会とした。

講演者：1. 医師 大内基司 教授（千葉大学大学院看護学研究院）

「フレイルって何？」

2. 理学療法士 下井俊典 特任准教授（千葉大学大学院看護学研究院）

「転ばない！筋力を保つ体操」

3. 保健師 飯野理恵 講師（千葉大学大学院看護学研究院）

「フレイルを予防するには」

参加状況：

参加者は、亥鼻祭のプログラムの一つとして組み込み開催したことにより、昨年に比べ増加し、高校生から高齢者まで各講座35名程度、延べ50名程度であった。

最初に、フレイルとは何か？を講演後、実際に転ばないための体操を行った。日常生活の中で体の動かし方への意識を向け、生活行動の中で筋力を保つことができるような体操をした。このわずかな動きや自然な身体の動かし方に、参加者からも納得の声や笑い声が上がった。さらにフレイル予防のための生活調整について説明をし、健康寿命への意識が高まった様子うかがえた。

事後アンケートは25名から回答が得られ、満足度は、満足が20名、やや満足が5名と回答者全員の満足感が得られた。自由記載欄にあった主な感想は以下の通りである。

- ・運動を体験できてよかった。ポイントがよくわかった。
- ・3名の先生方の講義はとてもわかりやすかった。今後の生活にいかしていく所、両親に伝える情報と沢山あった。
- ・まさに父がフレイルだ！とわかった。本日習った運動をさせたいと思った。
- ・現在81才、今のままの生活が維持できるよう運動をする、食事に気を付ける、手軽な体操がとても参考になった。
- ・エアコンで少し寒かったが、体操後は体が暖かくなった。

V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

教員			大学院生			
研究 研修等	学会参加	その他	研究 研修等	学会参加	留学	その他
35	14	13	1	8	7	0

2. 海外からの来訪者数

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
中国	大連医科大学	共同研究	1	365
中国	大連医科大学	共同研究	1	183
中国	大連医科大学	表敬訪問	4	2
ドイツ	ライプツィヒ大学	キャンパス見学	1	1
中国	大連医科大学	共同研究	1	365
インドネシア	ガジャマダ大学	表敬訪問	5	7
中国	遼寧中医薬大学	共同研究	1	184
インド	シンビオシス国際大学	学生引率	1	12
カタール	カタール大学	国際フォーラム 登壇	2	9
インドネシア	ガジャマダ大学	国際フォーラム 登壇	2	6
イギリス	レスター大学	国際フォーラム 登壇	2	7
ベトナム	ハノイ医科大学	国際フォーラム 登壇	2	5
南アフリカ	フリーステート大学	国際フォーラム 登壇	2	11
アメリカ	シンシナティ大学	学生交流	10	8
インド	シンビオシス国際大学	学生交流	14	8
インドネシア	ガジャマダ大学	学生交流	14	7
ドイツ	ライプツィヒ大学※	学生交流	26	29
香港	香港大学	学生交流	2	12
イギリス	レスター大学	学生交流	5	10
イギリス	アルスター大学	学生交流	3	17
台湾	国立台湾大学	学生交流	3	12
台湾	台北医学大学	学生交流	3	12

※ライプツィヒ大学からの来訪者はオンラインで来訪

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2023年12月現在で41か国284件の大学間協定があり、そのうち看護学研究院が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州 シャーロットタウン)	2016
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
イギリス	コベントリー大学 (コベントリー)	2020
インド	シンビオシス大学 (マハーラーシュトラ州プネー)	2022
イギリス	レスター大学 (レスター)	2024

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 (アラバマ州バーミングハム)	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 (カリフォルニア州サンディエゴ市)	2011
タイ	コンケン大学看護学部 (コンケン)	2015

国	大学（場所）	締結年
韓国	ソウル国立大学看護学部 （ソウル市）	2016
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2016
中国	復旦大学看護学院 （上海市）	2017
中国	香港大学看護学部 （香港）	2018
イギリス	アルスター大学看護学部 （北アイルランド）	2019
中国	大連医科大学附属第一医院 （大連市）	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007-2012
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017

3) ダブル・ディグリー協定

国	大学（場所）	締結年
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2024

編集後記

「千葉大学大学院看護学研究院年報 2024」を刊行いたしました。本年報は、千葉大学看護学研究院の教育・研究および社会貢献活動の1年間の内容を発信し、データベースとしての役割を強化することを目的としています。

2024年は、本研究院の教育・研究の発展にご尽力いただきました宮崎美砂子教授の逝去という悲しいことがありました。宮崎教授のご功績は、これまでの年報をはじめ本年報にも記されていますが、それだけではなく、宮崎教授は人材の育成にも力を注がれました。宮崎教授が指導してこられた人々は、今や、保健師・看護師、また、教育者や研究者として国内外各地で活躍され、本研究院においても教育・研究活動を支えてくださっています。

本研究院は、宮崎教授のご功績を胸に刻み、臨床の場の保健・看護の質の向上や人々の健康かつ安寧な生活への貢献、グローバル社会のリーダー育成とさらなる発展を目指して歩んでまいります。

このたび、図書・年報委員として本年報の発刊に尽力された正木治恵教授が退官されました。これまでのご貢献に深く感謝申し上げます。また、発刊までの事務業務を円滑に調整して下さった菊本拓係員をはじめ、事務部の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

2025 年春

図書・年報委員会 委員長 田上美千佳

2024 年度図書・年報委員

大内 基司（副委員長）、井出 成美、佐々木 ちひろ、遠山 房絵、正木 治恵（五十音順）

千葉大学大学院看護学研究院年報の沿革

1979(昭和 54)年 3 月 千葉大学看護学部紀要第 1 号発行
2010(平成 22)年 3 月 千葉大学看護学部紀要第 32 号発行
2011(平成 23)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号発行
2019(平成 31)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究科紀要第 41 号発行
2020(令和 2)年 3 月 千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2019 発行
2021(令和 3)年 3 月 千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2020 発行
2022(令和 4)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2021 発行
2023(令和 5)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2022 発行
2024(令和 6)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2023 発行
2025(令和 7)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2024 発行

千葉大学大学院看護学研究院年報 2024

2025（令和 7）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究院

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

